東京都立大学 都市環境学部 観光科学科

東京都立大学 大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

2022

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

ANNUAL REPORT

Department of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University

観光を科学する

TOURISM SCIENCE

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

ANNUAL REPORT 2022

観光を科学する TOURISM SCIENCE

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

1 Staff スタッフ紹介

2 Research Summary 研究概要
02 2-1. 自然環境マネジメント領域
05 2-2. 地域計画・マネジメント領域
11 2-3. 行動・経営科学領域

3 Research Result 研究成果
15 3-1. 自然環境マネジメント領域
17 3-2. 地域計画・マネジメント領域
21 3-3. 行動・経営科学領域

4 Specific academic research 特定学術研究
23 4-1. 自然環境マネジメント領域
24 4-2. 地域計画・マネジメント領域
25 4-3. 行動・経営科学領域

5 Student education 学生教育
26 5-1. 所属学生
5-2. 研究室への配属
5-3. 学位論文
27 –修士論文
28 –学位論文

6 Social contributions 社会貢献
30 6-1. 自然環境マネジメント領域
31 6-2. 地域計画・マネジメント領域
34 6-3. 行動・経営科学領域

7 Awards, etc. 受賞等
35 7-1. 自然環境マネジメント領域
7-2. 地域計画・マネジメント領域
7-3. 行動・経営科学領域

01 Staff スタッフ紹介

自然環境・マネジメント領域

Shinya NUMATA
沼田　真也
教授

学位　博士 (理学)・東京都立大学
専門　熱帯生物学、都市生態学、自然保護地域管理

Takaaki NIHEI
仁平　尊明
教授

学位　筑波大学
専門　地理学

Takeshi OSAWA
大澤　剛士
准教授

学位　博士（理学）・神戸大学
専門　生物多様性情報学・生態系管理学・保全科学

Etsuro TAKAGI
高木　悦郎
助教

学位　博士（農学）・東京大学
専門　森林動物学、個体群生態学、ナチュラルヒストリー

Yuki SAKAMOTO
坂本　優紀
助教

学位　博士（理学）・筑波大学
専門　人文地理学（観光地理学、文化地理学）

地域計画・マネジメント領域

Tetsuo SHIMIZU
清水　哲夫
教授

学位　博士（工学）・東京工業大学
専門　交通学、観光政策学、観光計画学

Susumu KAWAHARA
川原　晋
教授

学位　博士（工学）・早稲田大学
専門　観光まちづくり、観光地域マネジメント、都市・地域デザイン

Yu OKAMURA
岡村　祐
准教授

学位　博士（工学）・東京大学
専門　都市デザイン、都市計画、観光まちづくり、観光地域史

Yuki OHIRA
大平　悠季
助教

学位　博士（工学）・神戸大学
専門　土木計画、交通計画、都市・地域計画

Tomoyuki MASHIKO
益子　智之
助教

学位　博士（建築学）・早稲田大学
専門　都市計画学、まちづくり、都市デザイン、復興デザイン学

Norie HIRATA
平田　徳恵
特任助教

学位　博士（観光科学）・首都大学東京
専門　地域ブランディング、観光地域づくり、空間デザイン、環境色彩

Nguyen Van Truong
Nguyen Van Truong
Specially Appointed Assistant Professor

学位　PhD in Tourism Science, Tokyo Metropolitan University
専門　Transportation, Tourism Behavior, Big data

行動・経営科学領域

Kenro AIHARA
相原　健郎
教授

学位　博士（工学）・東京大学
専門　情報工学、行動把握・行動変容、サイバーフィジカルシステム、クラウドセンシング

Katsuya HIHARA
日原　勝也
教授

学位　博士（経営学）・筑波大学
専門　ミクロ経済学、経営学、観光政策、交通政策

Yohei KURATA
倉田　洋平
准教授

学位　米国メイン州立大学
専門　観光情報学、空間情報科学

Wu Lingling
Wu Lingling
准教授

学位　博士・広島大学
専門　観光マーケティング

Yu OGASAWARA
小笠原　悠
助教

学位　博士（工学）・弘前大学
専門　社会システム工学

Makiko ASO
阿曽　真紀子
特任助教

学位　修士（観光学）・琉球大学
経営学修士（専門職・MBA）・京都大学
専門　サービスマーケティング・観光教育・地域経営

熱帯雨林の野生生物観光

沼田　真也　Shinya NUMATA　　高木　悦郎　Etsuro TAKAGI

熱帯雨林を訪れる観光客の多くは野生生物観察に対する関心や期待は大きいものの、通常、熱帯雨林では野生生物は密度が低く、夜行性のものが多いため、観察するのは簡単ではない。そのため、野生生物と観光客との接点は小さく、野生生物観光としての満足度はあまり高くない。そこで、東南アジア熱帯雨林において、野生生物の生態学的研究手法を活用した観光アトラクションプログラム（バーチャルハンティングプログラム：VH)の開発を進めている。2022年度はエンダウロンピン国立公園においてカメラトラップの観光利用方法を公園管理者に教示するためのセミナーを開催した。また、エンダウロンピン国立公園およびタマンネガラ（国立公園）の公演管理者とVHの事業化について議論を行った。

西表島における観光事業がイリオモテヤマネコのロードキルリスクに与える影響

沼田　真也　Shinya NUMATA

世界自然遺産である西表島では、豊かな自然を活かした観光事業が盛んな一方で、固有種であるイリオモテヤマネコのロードキルが最も重要な脅威である。本研究では、現在と将来的の観光活動によるイリオモテヤマネコのロードキルのリスクへの影響を評価するためイリオモテヤマネコのロードキルが発生しやすい場所及び時期・時間帯（2）ガイド事業者ロードキルに対する認識と現在と将来の道路利用を検討した。その結果、事故・目撃が起こりやすい時間及び空間はみられず、目撃件数と事故件数の間で有意な相関関係は見られなかった。一方、ロードキルリスクが高いエリアや時間帯におけるガイド事業者による自動車利用はほとんどなく、ガイド事業者によるロードキルリスクは小さいと考えられた
（椿友菜　卒業論文）。

園芸ボランティア活動参加者の参加動機、満足度及び継続意思に関する研究

沼田　真也　Shinya NUMATA

公共空間のみどりを住民協働で維持管理するための仕組みの一つにアダプト制度があるが、参加者の高齢化等により公共施設のみどりを維持管理するのが困難になっている。本研究では、多摩市公園アダプト制度に注目し、アダプト制度への参加者の現状やその特徴を分析し、アダプト制度が抱えている課題や必要な支援や方針を考察した。 結果から若い世代の参加者としては活動を周りに周知することが必要だと考えていることが明らかになった。また ,活動内容に関心を持っている人が活動に対して高い満足度を得ていた。そのため、アダプト制度の運営を続けていくためには、特に花壇管理やガーデニングなどに関心を持っている若い世代において、アダプト制度の活動に興味を持たせ、活動内容が伝わる広報などの働きかけを継続的に行うことが効果的と考えられる（大谷清夏　卒業論文）。

里山継承ゲーミングを用いた世代間倫理に関する研究

沼田　真也　Shinya NUMATA

里地里山は、自然資源だけでなく、文化や風土の伝承などにも重要な役割を果たしてきたが、近年は里山環境に依存した多くの生物が絶滅の危機にさらされ、地域のくらしの知恵や文化の伝承が途絶えはじめた。受け継がれてきた里山を、どのように将来世代に残すかを考えるためには、価値観における世代間の相違を考慮する必要がある。しかし里山の保全においては、過去世代の営みを理解しつつ、将来世代に残すべきことを考えなければならない点が難しい。本研究では、内山田ら (2021)で用いられた伝達連鎖法をベースとした継承ゲーミング実験を試みた。その結果、追加条件前後で意思決定に変化があった村長は 16人中 1人のみであり、意思決定の際は【経済政策】と【里山の恵み】どちらかのみではなく両方を配慮して意思決定をした村長が多かった。
（權藤理子　卒業論文）

自然史資料に基づく生物多様性情報学

大澤　剛士　Takeshi OSAWA

標本や観察情報、市民参加型調査等、必ずしも厳密な調査デザインに基づいて取得されたわけではない各種自然史資料の収集、整理、さらには有効な利用方法についての検討を行っている。本年度は、日本の主要農産物であるコメとそれを加害するカメムシを対象に、数値シミュレーションと行政資料を組み合わせることで、気候変動に伴って植物ー植食者の関係が変化しうること、それは農業被害の増減に影響しうること（Tamura et al. 2022 Sci. Rep.）を示した論文を公表した。

自然の恵み「生態系サービス」の視覚化、定量に向けた研究

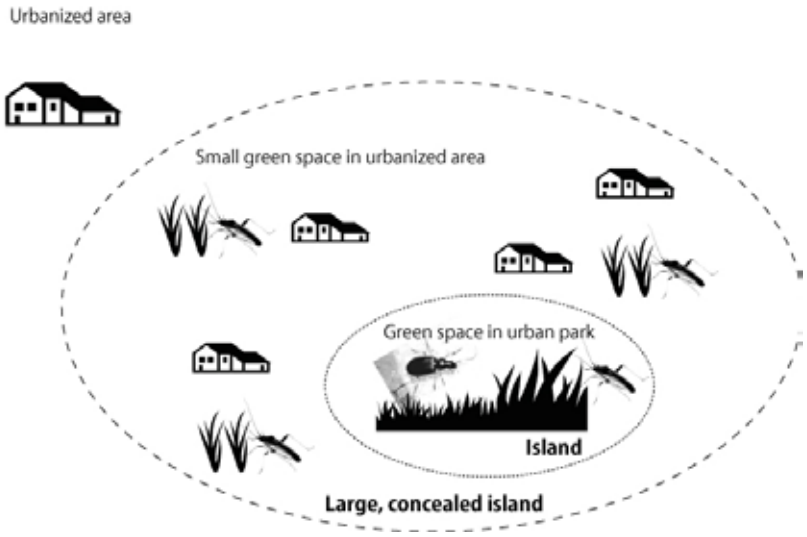
大澤　剛士　Takeshi OSAWA

自然環境、半自然環境から得られる人間への利益を「生態系サービス」という。生態系サービスには既に人間が認識し、積極的に利用しているものから、いまだ人間が気づいていない潜在的なものまで多種多様なものがあると考えられている。これら生態系サービスについて、潜在的な価値の捕捉、認識されながらも定量評価がなされていないサービスの定量化に向けた検討を行っている。本年は、半自然環境である水田および畑地はいずれも豪雨等の発生時における防災効果を発揮し、その影響は流域全体に及ぶことを明らかにした（Osawa 2022 Int. J. Disa.Red.）論文、カエルをはじめとする上位捕食者は条件次第で農地における害虫発生を抑制する可能性を検討した論文（Baba et al. 2023）を公表した。

都市公園における生物多様性

大澤　剛士　Takeshi OSAWA

人間活動により改変させた生態系である都市域に存在する都市公園は、地域の生物多様性に貢献している場合が多い。多摩地域を中心に、都市域における公園が持つ生物多様性保全の役割を検討している。本年は、公園そのもののサイズだけでなく、その周辺、例えば住宅地域や街路樹帯を含めた散在する緑地が公園内における生物多様性に貢献すること（Ohata et al. 2022）を示した論文、都市公園に生息する中型哺乳類は疥癬症に罹患することで行動時間を変化させることを示した論文（佐々木・大澤 2022）を公表した。



昆虫の個体群動態と観光の関係

高木　悦郎　Etsuro TAKAGI

昆虫は、膨大な種数、個体数、および生物量を誇り、地球上のあらゆる地域に生息し、生態系において様々な重要な役割を担っている。また、世界中で一般的に認知度や好感度の低い生物であり、日本を除いて観光対象となることはほとんどない。昆虫が持つ特徴の一つに、高い生態系エンジニアリング能がある。様々な昆虫が、劇的に生態系を変化させる。最近、この昆虫の生態系エンジニアリング能による生態系改変が、人間に与える文化的影響が注目されつつある。しかし、観光に及ぼす影響に関する知見はほぼない。
そこで本研究課題では、特に、昆虫の生態系エンジニアリング能に注目して、1）昆虫が大発生する要因、および 2）昆虫の大発生が起こった際に観光に及ぼす影響を明らかにすることを目的として、野外調査、野外実験、および室内実験を行っている。
今年度は、2報が査読付き国際英文誌に掲載された。

音楽実践と資源化に関する地理学的研究

坂本　優紀　Yuki SAKAMOTO

本研究では，東京都八王子市や長野県松本市，富山県南砺市を事例地として，音楽やそれに関係する事がらをミュージッキング musickingの概念で捉え，音楽と地域の関係を検討した。その際，音楽実践と音楽の地域資源化のプロセスに着目することで，両者の関係性を実証的に明らかにした。その結果，音楽と地域の関係性の構築には，住民による地域的有用性の認識，すなわち地域資源としての音楽の活用が重要となることが確認された。また，音楽を地域資源として活用する際にはバナキュラーな音楽やその関係者を取り込むことで，より地域に根差した音楽実践として認識されることが示唆された。

ビッグデータを用いた観光・交通政策の評価手法に関する研究

清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU　Nguyen Van Truong　大平　悠季　Yuki OHIRA

人流・消費・検索・SNSビッグデータを利用して、観光や交通の政策効果を評価する手法開発に資する次の研究を実施した。(1)民間企業のクレジットカード決済データを使用して、新型コロナウィルス感染症が消費者の観光への意識変化に及ぼした影響を分析した。(2)ETC決済データを使用して、東京オリンピック・パラリンピック大会時に実施された都市圏高速道路ネットワーク上の交通規制や料金施策が経路選択行動に及ぼした影響を分析した。(3)パーソントリップ調査が行われていない都市圏での交通需要分析技術の確立に向けた基礎研究として、通信会社による大規模滞在人口データベースを使用して、地域の滞在人口の時空間変動特性を分析した。

目的地案内の評価手法に関する研究

清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

観光地における目的地への適性や案内体系の構築に向けて、街路ネットワークにおける経路誘導の評価手法の開発に資する次の研究を実施した。(1)複数鉄道路線が乗り入れる大規模駅の構内ネットワークにおける案内サインの連続性を定量的に評価する方法論を基礎的に提案した。(2)街路ネットワークにおけるリンクの中心性の指標であるスペースシンタックス理論のインテグレーション値に着目して、経路上の交差点におけるその変化量と歩行者の迷いの関係性を分析した。

交通・観光分野における新技術対応とその地域展開に関する研究

清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU　川原　晋　Susumu KAWAHARA　大平　悠季　Yuki OHIRA

DX技術などの新技術を交通・観光産業や観光地に効果的に導入するプロセスの設計に資する次の研究を実施した。(1)新技術を開発する企業とそれを受け入れる地域観光企業・団体による効果的なシーズ・ニーズマッチングの実現を目指し、ステークホルダーへのインタビュー調査を通じて技術 ×ニーズ対応表を設計・試作した。(2)道路・交通分野でニーズオリエンテッドな ICT・DX技術導入を実現するためのフレームを提案し、そこに参画する有識者が抱える課題についての調査を実施した。

地域観光プランニング：観光まちづくりの計画技術の体系化研究

川原　晋　Susumu KAWAHARA　岡村　祐　Yu OKAMURA

観光を手段として用いた持続可能な地域づくり＝観光まちづくりの計画技術の体系化をめざして、日本建築学会の小委員会として活動している研究である。行政の観光計画の対象がソフト中心となっている状況に対して、より質の高い観光「エリア」を作っていくための景観や公共空間の魅力化といったハードと、観光コンテンツの開発などのソフトが連動した計画論をめざしている。それぞれに関わる先進事例の調査をもとに、従来の観光計画や都市計画・まちづくりとの関係のなかでポジショニングをしつつ、手法の要点を整理している。具体的には、地区スケールで環境・空間改善や、地理的・空間的・人的環境の中で観光資源をとらえることを重視し、実効性ある公民連携の取り組みとするための、フロートビジョンと実行チームのつくり方、社会実験を通しての事業化といったプロセスデザイン、持続的な観光地経営のためのエリアマネジメント組織や観光財源確保の方法等である。

八王子中心市街地のフロートビジョン「景観絵本」の作成と実現にむけたアクション

川原　晋　Susumu KAWAHARA　　平田　徳恵　Norie HIRATA

八王子駅周辺の中心市街地の魅力を高める景観づくりに向けて、地域観光プランニング研究会（研究代表：川原）が提唱するフロートビジョンとその実現にむけたアクションの手法を適用した実践研究である。

行政計画に位置づけることや事業性を棚上げする一方で、多くの人が関わりたい投資したいと共感が得られる将来空間像や活動像を「フロートビジョン」としてビジュアル化し、その実現にむけた迅速なアクションを公民連携で取り組む方法である。川原が全体ディレクターとなり、八王子市まちなみ景観課との共同研究として進めた。2021年度は、専門家で構成される景観デザイン会議と、市民ワークショップの両輪で議論を重ね、中心市街地のモデルとなる10箇所の将来像を、スケッチとやさしい言葉で描いた「景観絵本」を作成し、発行した。2022年度は、そのスケッチの実現に向けて川原研が 2つのアクションを起こした。1つは公共空間や店先空間の地植え植栽を推進する「アシナミドリ」、2つめは、花街エリアで推進されてきた黒塀景観を活かして、さらなる修景と誘客をねらう「黒塀キャンバス」である。どちらも、社会実験として地域の市民や事業者と一緒に現場で試行し、次年度の展開に向けた課題の抽出や、継続のためのチームや資金の仕組み作りをすすめた。詳細は HPへ。
https://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/study/project/floatvision-of-Central-hachioji.html

2022年度は最終年度として、「（仮称）観光地域づくりのメソッド」（学芸出版社より出版予定）の最終原稿を活かした、以下のアウトリーチ活動を行った。

●本書の重要な理論とメソッドであるフロートビジョン＆アクションについて、八王子市中心市街地の中心市街地活性化の手段として実践検証を行った。

●観光科学科、観光まちづくり論、特論の特別講義として、執筆陣による 15回の連続講義を行った。

●計画メソッドの普及のためのデザインマネジメントを検討した。メソッドごとのアイコンと俯瞰図を作成し、その使い方についての議論を深めた。

詳しくは HPへ。https://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/study/theme/sustinable-destination-planning.html

フエ皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法としてのエコスタディツアーの開発

川原　晋　　Susumu KAWAHARA

ベトナム最後の王朝、阮朝の歴代皇帝陵は、ユネスコ世界遺産「フエの建造物群」の構成遺産として認定されている。筆者らの研究チームは、建造物のみならず、周辺の自然環境や集落、水田を含めたランドスケープや水利システムが、中国の風水思想を土台にベトナムの気候風土に合わせて独自に工夫されて計画されていたことを明らかにしてきた。しかし、ベトナム戦争による被害や、近年の農業や林業形態の変化や、地域外資本による観光目的の空間改変によって、その景観や水利システムが壊されつつある。

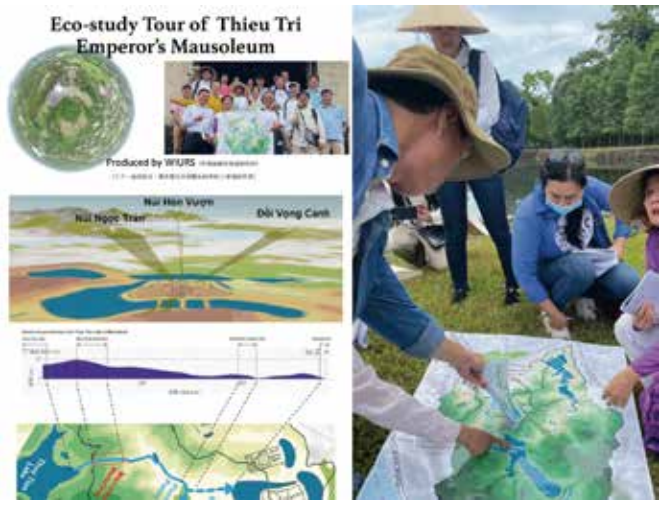
そこで、筆者らの日本調査チームでは、集落住民や政府関係者と皇帝陵の計画思想を共有し、皇帝陵の歴史的環境の保全と適切な観光活用のために、2017年よりエコスタディツアーを試行してきた。2020年度より現地ツアー会社を設立し実践段階である。

今年度は、第三代皇帝 Thieu Tri帝陵墓の調査成果を活かしたエコスタディツアーを造成するための実証実験を行った。フエ遺跡保存センターのスタッフを対象にツアーとワークショップを行い、一般の人向けのガイド用スクリプトを作成する基本的な考え方を整理した。歴史的な陵墓環境の調査成果に、歴代皇帝一族のヒストリーや阮朝文化をつなげて解説する工夫をした。

活動ブログ
https://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/blog/2022-08-25.html

今後は、この研究成果をいかし、すでに世界遺産として認定されている「フエの建造物群」としての捉え方だけでなく、それらの周辺環境まで含めたフォン川流域圏としての独自の環境や文化の価値付けを行う。そして、世界遺産への再ノミネートにむけてのベトナム政府への学術知見の提供や、その教育啓蒙活動としてのエコスタディツアー造成を展開させていくことを提言した。

流域圏としての環境マネジメントについては、科研費 基盤 B「ベトナム香江流域圏における歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築」2019年度～2022年度（研究代表者 :佐藤滋 早稲田大学）を科研費データベース等で参照されたい。



プロジェクターマッピング模型システムを用いた新たな地域解説展示・教育の方法の開発

川原　晋　　Susumu KAWAHARA

近年、模型に多様な主題地図をプロジェクターで投影するプロジェクターマッピング模型システム（P＋MMシステム）が博物館等で導入されている。投影する画像は PCで自由に作成できるので多様な活用の仕方ができるはずであるが、各地での利用の現状は、投影コンテンツの更新はあまり行われず、一方的な解説展示ツールの域を出ていない。そこで、リアルタイムに模型に書き込み投影をしたり、多くの人がコンテンツを作成し、持ち込み投影できるような利用方法が可能になるように、P＋MMのメーカーと共同研究をすすめ、民間ガイド等も活用できる解説展示ツールとして新たな利用や、教育ツールとしての活用方法を研究してきた。

2020年度は、観光科学科の観光計画・デザイン演習において、学生が作成した主題図を投影し議論を行う方法を試行した。

2021年度は、八王子市役所との共同研究により、桑都日本日本遺産センター　八王子博物館の展示作品として、「八王子産食材でつくるお酒とおつまみ」を学生有志と制作した。この投影作品の特徴は、人々が興味を持ちやすい「食事」を入り口に、八王子の日本遺産の構成文化財となっている資源やストーリーを表現した点である。また、この展示作品を用いて地元生産者が販促に活用できるようなワークショップ方法を提案した。

2022年度は、生産者へのインタビューを行い、生産者視点の記事のアップデートを行ったうえで公開準備を進めた。

本事例は、P+MMシステムを観光や教育現場で用いた日本初の事例であり、また、P+MMのメーカーでなく、一般ユーザー自らが汎用ソフトでコンテンツ制作してシステムにインストールし表示したり、描画やデータ更新の点で双方向性を持たせた日本初の事例となった。また、これを容易に行うシステムプラットフォームを開発できた。

https://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/study/theme/Tourism-Applications-of-Technology.html

大田クリエイティブタウンの構想と実践

岡村　祐　Yu OKAMURA

大田区は世界に負けない技術を誇るモノづくりと豊かで楽しい暮らしが重なり合うまちである。地域自ら持続的に価値を育む「クリエイティブタウン」という将来像実現に向けて、大学（東京都立大学、横浜国立大学）、観光協会、地元工業者等が中心となり 2017年 4月に（一社）おおたクリエイティブタウンセンターを設立した。これをプラットフォームとして各種プロジェクトを展開している。2022年度は、工場経営者のヒアリング調査や地図調査から「ものづくり戦後史」へのアプローチ、３年ぶりに期間限定で工場を一斉公開する「おおたオープンファクトリー」の実施、教育旅行向け工場見学プログラム「ファクトリップ」のモニターツアー実施および事業化に取り組んだ。本研究の一部は、都市環境学部傾斜的研究費若手奨励研究の助成を受けて実施した。

都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性

岡村　祐　Yu OKAMURA

本研究は、「散策路事業（＝散策路の整備・設定や、まち歩きイベントの開催）」が、健康、レクリエーション、モビリティ等、散策する市民のライフスタイルの変化から生み出されるプッシュ要因と、郊外・行楽地開発、自然・文化資源の保全活用、コミュニティ形成等、来訪者を受け入れる地域側が期待する環境形成につながるプル要因から成り立つという仮説のもと、第一に、「散策路事業」の通史研究（時代区分と各時代の特徴解明）、第二に、特定地域における散策路事業の事例研究、第三に、「暮らし体験型散策路」の計画提案・実践・評価を研究課題として掲げている。
2022年度は、海外事例に由来する散策路事業について、日本国内での展開組織のねらいと、海外規範事例に関わる組織との関係性、技術移転の手法と導入された計画技術の特徴を明らかにし、散策路事業における海外からの技術移転の手法と課題について考察した。なお、本研究は科学研究費基盤研究（C）の助成を受けて実施した。

持続可能な観光地域計画技術の国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究

岡村　祐　Yu OKAMURA　川原　晋　Susumu KAWAHARA

ビジョンの構想から観光コンテンツの造成・提供、資源マネジメントまでを一気通貫の方法として構築し、総体として持続可能な観光地域形成を目指す取り組みは各所で蓄積されている。本研究では、これを「持続可能な観光地域形成の計画技術」と呼び、海外から日本国内への国際的な技術移転と、国内での普及・伝播、当該地域同士の交流やネットワーク形成に着目する。移転元のオリジナルモデルが、いかに移転先の固有 の状況（政策 /計画 /環境 /資源 /産業等 ）を踏まえたものになっているのか（ローカライズされているのか）、そしてその技術知を共有する地域間の関係性が、いかに当該観光地域の持続可能性の向上に寄与するのかを検証する。さらに、上記の知見を踏まえて、温泉地の観光まちづくりやものづくり観光など、日本国内で独自に発展してきた「持続可能な観光地域形成パッケージ」の海外への技術移転の可能性や、それに取り組む際の要点整理を行う。2022年度は、阿蘇および萩など複数の計画技術が導入されている地域のフィールド調査や関係者へのヒアリング調査を実施し、各計画技術の特徴把握や、計画技術の導入・展開を契機とした国際交流の実態について調査を行った。なお、本研究は科学研究費基盤研究（B） の助成を受けて実施した。

ビッグデータを用いた観光・交通施策評価の試み

大平　悠季　Yuki OHIRA　清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

交通・消費等のビッグデータを活用して、観光や交通の施策の影響を評価する手法を検討した。具体的には、(1) ETCログデータと車両感知器データを用いて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間に導入された首都高速道路の混雑料金施策による経路選択の変化を分析した。(2) 鉄道会社から提供を受けたカード決済データを用いて、COVID-19感染拡大前後での観光関連消費の変化のパターンを把握した。

観光地における案内標識の評価手法の提案

大平　悠季　Yuki OHIRA　　清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

多くの観光客が訪れる大規模鉄道駅や観光地における案内標識の設置場所や設置方法を客観的に評価・診断する方法を検討した。具体的には、(1)都心の大規模鉄道駅を対象に、駅構内の現行の案内標識の設置状況を再現したネットワークデータを構築し、任意の出発地から目的地までの到達可能性を調査することによって案内標識の連続性を診断した。(2)街路ネットワーク構造の解析と動画視聴による実験に基づき、観光地での案内標識の設置基準の参考となる指標の提案を行った。

防災・減災とレクリエーションに資する空間形成を目指した事前復興まちづくりに関する実践的研究

益子　智之　Tomoyuki MASHIKO

東京都新宿区戸塚地区において、避難路や広場、休憩所等の防災・減災空間にレクリエーションの要素を付与する研究的実践を実施した。第一に、2021年度の事前復興の継続活動の成果を踏まえて、レクリエーション活動を生み出しやすい地区内の空間を抽出し、まちあるきの企画を行なった。自治会と協議会と連携し、若年家族や外国人の参加を促すプログラム「ハロウィン防災ウォーク」を実施し、発災時のみならず普段使いのできる場所の検討を行なった。第二に、学部生を対象とした講義の中で、同地区を対象として防災とレクリエーションを両立させる空間整備を検討するグループワークを行なった。設定した4つの避難経路上の休憩所を対象に、ペルソナとアクティビティを想定し、恒常的に利用したくなるようなレクリエーション空間を構想した。このワークの結果は、次年度以降の事前復興活動内容への反映を検討する。

イタリア・アマトリーチェにおける大規模災害後のバールの移転と来店客の利用行動変化の分析

益子　智之　Tomoyuki MASHIKO

イタリア半島を縦断するアペニン山脈沿いの中山間地域は、都市部に住まう人々の観光地として発展しており、特に避暑地としての特性を有している。一方で、同地域は地震発生リスクが高い地域でもあり、2016年イタリア中部地震では4つの州にまたがる広い地域で人的・物的被害をもたらしている。本研究では、ラツィオ州アマトリーチェの旧サラリア街道に面する集落のバールを研究対象とし、その移転の実態と来店客の利用行動変化の分析を行なった。結果として、バールが隣接地へ移転したことにより、来店客の生活行動の連続を担保しており、災害復興過程においてバールは交流の場所として機能していることを明らかにした。この調査は、2023年3月に実施したため、来店客の8割以上が地域住民であったため、2023年夏に同調査を実施することにより、観光客の利用行動特性の把握が求められる。

地域振興と災害伝承のための復興ツーリズムに関する研究

益子　智之　Tomoyuki MASHIKO

近年、様々な災害が世界各地で多発化・激甚化している。被災地域の復興では、人的・資金的リソースが被災者の住まいの再建と中長期的な社会・経済活動の再活性化に特化して投入され、災害伝承も含めたツーリズム構想は事後的に企画される。災害伝承の方法は、地名化・口伝・祭礼化・伝記化など古来からの方法に加えて、近代以降の伝承館や祈念公園整備など施設化の傾向もみられる。本研究では、1976年フリウリ地震被災地ヴェンゾーネの復興博物館を視察し、その展示構成と伝承方法、地域振興への影響を調査した。その結果、1)人々の被災体験を追体験できる展示の流れ、2)展示室と資料室を合わせた博物館の構成、3)被災集落の原形保全と被災度調査訓練への活用、4)自転車道の整備と説明パネルの設置、等の特徴を把握した。

持続可能な観光地づくりのための観光政策立案実践人材の育成

平田　徳恵　Norie HIRATA

持続的な観光地域づくりのためには，観光経営と地域づくり・地域資源マネジメントを両輪で連携しながらの実践が必要である。自治体や地域の事業者などの多主体で，各地の地域創生を実現していく官民協働での観光地域づくりを進めるためには，地域に適切な政策立案やこれらとの整合性のある施策および事業立案のできる知識を持つ観光政策立案実践人材が必要となる。この仮説のもと，地域づくり・地域資源マネジメントに関わる地域のキーパーソンに必要となる知識や技術について調査し，分析整理を行った。また，地域資源マネジメント人材により地域資源調査および地域住民への地域資源教育が実践的に展開されているとみられるブルーフラッグを活用しての自治体と民間の連携による地域ブランディングの取組みについて，日本の状況を調査分析し，論文を執筆した。なお本研究は，科研費若手研究を受け実施した。

住民主体の観光地域づくり推進に向けた色の活用による地域学習プログラムの開発

平田　徳恵　Norie HIRATA

持続可能な観光地域づくり実現には，地域資源マネジメントへの地域住民の主体的な関わりが重要となる。住民による自主的なマネジメント誘発には，まず，地域資源の学びが必要となる。本研究の目的は，色を活用した地域住民の観光地域づくり自分事化プログラムの開発と実践，その評価である。地域住民自らが地域資源について学び，抽出した色に資源の意味を付与し作成する地域色集を「地域色パレット」と定義し，最終的には，地域住民が観光地域づくりの担い手へと成長するための手法として提案する。

今年度においては，地域色パレットのプロトタイプ開発のため，数事例の観光地において現地での地域色調査を行い，地域住民の意識変容を引き起こす地域色パレットのプレ設計を行った。世代やジェンダー，業種を超えて活用可能な色を入口とした新規的地域学習プログラムの開発に向け研究を遂行中である。

なお本研究は，科研費若手研究を受け実施した。

空き家の適切な活用に向けた学術的知見の情報発信

平田　徳恵　Norie HIRATA

日本建築学会の住まい・まちづくり支援会議では，学会として蓄積してきた学術的知見を，一般の市民や各種公共団体に向けて正確な知識を分かりやすく提供する方法について検討し，学会のホームページ等を通し情報提供等を行っている。

情報事業部会において，空き家の適正な利活用および特定空き家等の危険な空き家への対処方法等について市民へ必要な知識を広く提供するために，これまで行ってきた具体的な活動は以下である。まず，2016年～2021年に発表された空き家に関する閲覧可能な公開論文を収集し，論文年表マップとして整理した。次に，学会員から空き家の制度概要や研究，好事例についての記事を収集した。2022年度においては，ホームページの公開へ向け，収集した記事の査読や編集作業等を行った。当該ホームページ（空き家ものがたり http://news-sv.aij.or.jp/shien/s2/akiya/index.html）は2023年2月に公開に至った。

定点計測手法の高度化とデータ解析に基づく流動把握手法に関する研究

相原　健郎　Kenro AIHARA

本研究は、地域への流出入と地域内での流動把握を各個体の動きの集約により実現する「ミクロ流動把握」の実現を目指すなかで進められているものである。ここでは自動車の流動に関して、その流動把握のために、都市の複数地点に設置するカメラによる車両認識とその記録・収集・解析の方法論の提案と実現を目的としている。システムはネットワークカメラと処理用 PCおよびデータ転送用のネットワーク機器で構成され、リアルタイムで認識結果がクラウドに集約される。2022年度は、これまでの2つの自治体に加え、新たに隣接する自治体の協力を得て、複数地点にプロトタイプシステムの設置を拡大し、試行を進めた。継続的な運用にて計測を実施し、動作安定性や精度、および、設置上の課題等を抽出するとともに、データ分析や活用法について、利用者視点での意見などを取り入れた検討を進めた。

観光・交通分野におけるリスク分配契約に関する研究

日原　勝也　Katsuya HIHARA

航空会社と空港の関係のように、異業種の主体間の関係の中には、対立関係と協調関係が共存する複雑で多面的な構造を有するものがあり、契約理論、ゲーム理論等の観点から興味深い。我が国でも、地方空港が航空会社と路線収入のリスクを分配する契約例が現れ（能登空港搭乗率保証契約 (2003～)等）、国交省も、羽田空港の発着枠の配分において、地方路線向け発着枠配分につき、両者のリスクシェア等の協調内容を加味する事態も生じている（2012年～）。空港のコンセッション契約においても、空港側と航空会社が需要変動リスクを共有する方式の着陸料を設定する例が見られる。
本研究は、空港と航空会社のリスク分配契約に関する先行研究を踏まえ、より一般的な状況へ分析の拡張を試るものである。2020年度には、DMOに代表される外部の旅行需要促進のための組織との連携について、上記空港と航空会社の関係に加味して、不完備契約理論・ゲーム理論の観点から、どのように旅客需要変動リスクを関係者間でシェアするリスク分配契約の構造化適切かについて、基礎的な分析結果を得た。

データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発

日原　勝也　Katsuya HIHARA　清水哲夫（代表）　Tetsuo SHIMIZU　小笠原　悠　Yu OGASAWARA
大平　悠季　Yuki OHIRA

地域観光地は観光現象や評価に関するデータを継続的に取得し，適切なマーケティングや資源開発につなげる必要があるが，そのためには特に狭域 DMOの施策・事業立案に役立つ解像度の観光統計・データを整備する方法論を学として提案する必要がある．本研究では，延べ宿泊数データに特化し，国家観光統計，民間データ企業の滞在人口分布データ，およびWifiパケットセンサーデータなどを組み合わせて，観光地内の属性別延べ宿泊者数をできるだけ細かい時空間解像度で推計する方法を開発する．その際，DMOの施策・事業ニーズを徹底的に洗い出し，その評価に必要な指標データと推計方法の Porto Folioを提示する．研究期間を 3年とし，観光学，交通学，地理学，経済学，経営工学を専門とする研究者 6名による学際的なチームで研究を遂行する．本研究は，世界の観光統計研究に新しい視点と大きなインパクトを与え，DMOのデータ利活用人材層の強化・育成にも貢献する．分担者：兵頭哲朗（東京海洋大学）、矢部直人（東京都立大学）、杉本興運（東洋大学）、片桐由希子（金沢工業大学）

温泉地における客数増加の要因分析に関する研究

日原　勝也　Katsuya HIHARA　小笠原　悠　Yu OGASAWARA　目代凪　Nagi MEJIRO
岡本　直之　Naoyuki OKAMOTO

温泉浴の観光需要に与える影響は大きいが、温泉地の宿泊人員はピーク時のバブル期前後から 1,300 万人泊減少しており、宿泊施設数も大幅な減少傾向となっている。温泉地の低迷要因の指摘や再活性化に関する提言が数多くなされているが、現状は各温泉地の取り組みを明らかにした定性的な研究が殆どで、地域間の比較が可能なオープンデータを用いて客数の増加に寄与する要素を定量的に明らかにした研究は限定的である。
本研究は、データ制約から従前十分に分析されていない市町村、特に、温泉地が位置する全国 85 市町村を対象として、入湯客・宿泊客の増加に繋がる要因について、推計データを用いた新たな定量的分析を試みる。観光地へのアクセス状況などの従来から議論されている要因に加え、最近増加している訪日外国人観光客に関する要因等も加え、温泉地所在の市町村レベルで、集客にとって有効な施策・要因について新たな知見の習得が期待される。協力学生：目代凪　岡本直之

観光の地域経済の非対称性に対する影響に関する分析

日原　勝也　Katsuya HIHARA

観光客の流入による宿泊や飲食の活動により、地域の経済は、所得、投資、産業、雇用など多面的な影響を受ける。特にインバウンドの急激な伸びは、コロナ禍までの我が国の地域経済に多くの影響を及ぼしていると考えられている。他方、観光の諸活動が、具体的にどの地位にどのような影響を及ぼし、地域間の差異はその影響によりどのような変化を遂げるのかの分析は多くない。首都圏など都市圏と山間部の従来よりの差異（非対称）に、観光の諸活動はどのような影響を与えるのか、特に、インバウンドと国内観光客との間で非対称性にどのような影響を与えるかの研究はほぼ見られない状況にある。オープンデータを用いて、経済モデルを構築し、このリサーチギャップを埋めることに貢献することを試みる。これにより、我が国の観光活動のマクロ経済構造の解明と、インバウンドの伸びなどの影響を定量的に評価できることが期待される。

協力学生：狩野佑季、鈴木美穂

コロナ禍における各種感染抑制策・技術状況等が旅行意向に与える影響の分析

日原　勝也　Katsuya HIHARA

本研究では、コロナ禍により多大な影響を受けている我が国の観光セクター（東京都都民）を例に、緊急事態宣言等の感染抑制策がなされていた時期と緩和された時期とで、旅行意向を説明する要因分析を行うことで、感染抑制策の評価に貢献するとともに、将来にも起きる可能性のある新たなパンデミックに対応するために必要な施策準備にも寄与することを試行する。併せて、コンタクトレス・タッチレスの技術が、ホテル等の利用者の利用意向に対する影響も定量的に評価することを試みる。これを通じ、実務者に対する有益な知見の提供につながることも企図する。併せて、年齢、学歴、性別など社会属性を含めて分析することで、コロナ禍における各種感染抑制策などが、社会階層ごとの訪問意向・利用意向に与える影響について詳細な知見を得ることが期待でき、今後の各種施策に有益な知見を提示できる可能性がある。協力学生：竹中友麻、Dolgion Davaajargal

プライベートロッジング・シェアリング・サービス（Airbnb 他）に関する研究

日原　勝也　Katsuya HIHARA

本研究では、シェアリングエコノミーのなかでも、プライベートロッジングのシェアリングサービス（民泊）について、webベースのプラットフォームを用いて世界に革命的な変革をもたらし、旅行のみならず宿泊分野においても、また、不動産賃貸分野においても大きな影響をもたらした、Airbnbについて、経営学、経済学、社会学、情報学等他分野からの多くの研究論文について整理し、Airbnbのもたらす旅行者、ホスト、旅行業界、地域住民、地域社会等への影響や評価の方法論について、包括的に分析を行った先行研究等に基づき、我が国の状況等を加味して、より包括的な研究レビューとすることを試みているものである。非常に変化の大きいシェアリングエコノミーにおいても、安定的に拡大を続けている Airbnbをはじめとするハウジングスペースシェアリングについて、内外における最新の学術知見を整理し、今後の研究の課題等を明らかにすることが期待できる。

協力学生：屋良英美絵

ヴァーチャルツアー閲覧中の周囲見回し行動の誘発

倉田　陽平　Yohei KURATA

グーグルストリートビューをスライドショー状に仕立て，案内役キャラクターを重畳した簡易ヴァーチャルツアー閲覧・制作ツール「だれでもガイド!」を2016年から公開し，コロナ禍中に重宝されてきたが，ツアー中に背景がせっかくパノラマ画像の場面でも利用者がなかなか周囲を見回そうとしないという課題を抱えていた．そこで，利用者の身回しを促すような改善策を実装し，近隣の観光資源を見回せば見えるかもと提案するような仕組みはうまく機能せず，結局，見回し可能な場面では単純にその操作法を表示することが最も効果的だということを見出した．

膨大なジオタグ付きツイートからの各地の観光中リスクの検出

倉田　陽平　Yohei KURATA　吉田　伊武貴 Ibuki YOSHIDA

吉田氏が卒業研究で機械学習により構築した失敗談分類器をゴールデンウィーク中のジオタグ付きツイートに適用し，観光地域分析演習の演習課題として，受講生出身地の失敗談ツイートを可視化する演習を実施した．この結果，各地で，ゴールデンウィークなのに思いがけず暑くて苦しんだといった，季節性のある観光中リスクが検出できた．

膨大な宿泊レビューから読み解く総合評価を低下させる不満要素の分析

倉田　陽平　Yohei KURATA　吉田　伊武貴 Ibuki YOSHIDA

楽天トラベルの膨大な宿泊レビューデータを用いてレビュー文中に現れる不満項目（虫やWiFiの弱さなど）をリストアップし，レビュー文中に記述される不満要素と総合評価点との関係性を①宿泊施設種別と②宿泊者の同行者種別，③宿泊施設の価格帯の観点から分析し，これにより各種宿泊施設が優先的に解消すべき不満懸念要素を明らかにした（具体的には①低価格帯の宿では WiFiの不満が総合評価を下げやすいので要注意，②一人旅旅行者は食事提供への不満が総合評価値を下げやすい，③カップル旅行者は虫への不満が総合評価値を下げやすいなど）

膨大なジオタグ付きツイートからの地域課題の抽出

倉田　陽平　Yohei KURATA　吉田　伊武貴 Ibuki YOSHIDA

わざわざジオタグをつけてまで投稿された不満ツイートは地域の課題点を指摘するもので，行政施策の参考になるはずだという仮説のもとに，国立情報学研究所から提供を受けた不満文例集を元に機械学習により不満談抽出器を構築し，試験的に北海道内で投稿された膨大なジオタグ付きツイートに対し適用し，ジオタグ付き不満ツイートを抽出したところ，「北海道なのに暑い」といったような他愛のない愚痴がかかれたようなものがほとんどで，行政課題の参考になるはずという当初の目論見ははずれた．

博物館バーチャルツアーと実際の訪問行動の相互関係についての研究

Wu Lingling, Medai Nagi

本研究は、2022年 7月に実施した Webアンケート調査で収集したデータを用い、COVID-19のパンデミックを契機として観光業界に広く普及した博物館バーチャルツアー（以下、VT）と実際の訪問行動の相互関係を検証したものである。VTと現地への訪問に対するそれぞれの行動意図を従属変数とする二変量プロビットモデルの推定の結果、現地への訪問意向に影響を及ぼす訪問経験が VTへの参加意向にも正の影響を与えることが確認された。また、VTへの参加意向の規定要因である知覚された有用性とポジティブ感情が現地への訪問意向にも正の影響を与えることが示された。さらに、2つの行動意図の間に正の相互依存関係が存在することが確認された。これらの結果から、両者は互いにその行動を促進し合う補完関係であることが示唆された。本研究で得られた示唆は ICT技術を活用した仮想的な旅行体験における重要なリサーチギャップの解消に寄与するものであるといえる。

COVID-19 における非強制的措置は人間の移動性に与える影響に関する研究

Wu Lingling, Shimizu Tetsuo

本研究は、モバイル空間統計データの分析を通じて、COVID-19における非強制的措置は人間の移動性に与える影響を定量的に評価した。非負行列因子分解（NMF）法を用いて、東京地域のモバイル空間統計データを分析した。データ分析の結果は、日本で採用された措置は非強制ですが、人口移動を減らし、人々が社会的距離を置くように動機付けるのに効果的であることを示した。さらに、3つの都市（東京、大阪、広島）の移動性の変化を比較し、パンデミック時の行動パターンの変化の類似点と相違点について説明した。この研究で提案された分析ツールは、パンデミック中の移動性の変化、およびパンデミック後の段階での人口移動パターンの長期的な進化を分析することができる。

観光・ホスピタリティ産業における不確実性に基づいた意思決定手法の開発及び解析

小笠原　悠　Yu OGASAWARA

島へのフェリーと島内のレンタカーやアミューズメントパークの入場チケットとアミューズメントパーク内のレストランなど観光産業やエンターテイメント産業に多く見られる入れ子の需要構造において，サービス販売の促進及び総収益を最大化するバンドル商品の価格や商品数を求める収益管理問題を扱った。本年度では，査読や学会発表を通して得られた専門家の指摘を下にした数値解析を，これまでの解析に追加的に実施した。更に実際の最適解を求めるためのアンケート調査も行った。また，ホスピタリティ産業に関しては，外食産業の栄養データベースの作成及び解析を実施し，栄養バランスと価格の関係が一般的に非線形，具体的には凹性を持つことを明らかにした。

サービス提供者の行為による価値共同破壊回復のプロセス

阿曽　真紀子 Makiko ASO　岡島　眞理　Mari OKAJIMA

サービスマーケティング研究としての継続研究である。今年度は、価値共創と価値共同破壊の関係が表裏一体であることから、価値共創が価値共同破壊に移り変わる兆候をサービス提供者がいつ、どのように知覚し対応するのかを調査研究している。調査は国際線の機内サービスシーンに着目し、客室乗務員経験者に半構造化インタビューを行い分析した。調査結果、5つの項目に対して価値共同破壊リスクへの回避対応をしていることを明らかにしている。これらの項目の時間的な変化は、サービス提供者のリスク回避あるいは改善のための行為を表していた。研究は、サービス提供者側の視点に立ち、サービス提供者が価値の多様性に合わせることで価値破壊を予防したり、リスク回避したりすることが、価値共創の可能性を高められることを議論している。

アップサイクルの有用性の再検討：サービスサプライチェーンの循環型経済の視点－航空整備士の機材廃材利用の事例－

阿曽　真紀子 Makiko ASO　岡島　眞理　Mari OKAJIMA

研究は、SDG's社会的な意識の高まりによって注目されている循環型経済（サーキュラーエコノミー）に着目し、航空会社による航空機廃材のアップサイクルの実践事例を取り上げて、ニッチな効果を克服した理由と方法を明らかにすることを目的に調査している。研究は、サービスの二重性、サービスサプライおよびクローズドループサプライチェーンモデルを検討する。その結果、アップサイクル商品には歴史的メッセージを喚起し、顧客自身の経験や知識に基づいて評価されれば購入に繋がることが示唆された。また、整備士のアップサイクルの商品化への熱意は、社内の顧客情報交流が密になり、サービスサプライチェーンは資源のリバースループすることで、第一サービス提供者である航空会社Xのサービス品質を向上させる効果は、サービスサプライチェーンの循環性につながると考えられた。よって、航空会社Xのサービス品質向上につながると期待できることが確認された。

沼田　真也 Shinya NUMATA

学会発表

成田あゆ、沼田真也、荒木希和子、宮脇成生、鈴木牧、上野裕介 私たちの考える理想のキャリアパス：会員アンケート調査 日本生態学会第70回 オンライン　2023年 3月

論文、図書・報告書

Jacobs、M。H。、S。Dubois、T。Hosaka、V。Ladanovic、H。F。Mohamad Muslim、K。K Miller、S。Numata、E。Ranaweerage、T。M Straka、M。A Weston、Z。A Zainal Abidin。(2022) Exploring cultural differences in wildlife value orientations using student samples in seven nations。Biodiversity and Conservation。https://doi。org/10。1007/s10531-022-02361-5

Numata、S。、K。Yamaguchi、M。Shimizu、G。Sakurai、A。Morimoto、N。Alias、N。Z。Noor Azman、T。Hosaka、A。Satake (2022) Impacts of climate change on reproductive phenology in tropical rainforests of Southeast Asia。Communications Biology 5、311 (2022)。https://doi。org/10。1038/s42003-022-03245-8（2022/4/21プレスリリース）

Jambari、A、M。Nakabayashi、S。Numata、T。Hosaka (2022) Spatio-temporal patterns in the density of active terrestrial leeches in a Malaysian rainforest。Biotropica。https://doi。org/10。1111/btp。13120

Eva、A。N。; Suzuki、A。; Numata、S。(2022) Spatiotemporal patterns of human–carnivore encounters in a seasonally changing landscape: a case study of the fishing cat in Hakaluki Haor、Bangladesh。Conservation 2(3)、402-413; https://doi。org/10。3390/conservation2030027

Ngo、K。M。、T。Hosaka、S。Numata。(2022) Attitudes and preferences of wildlife and their relationship with childhood nature experience amongst residents in a tropical urban city。Urban Ecosystems。https://doi。org/10。1007/s11252-022-01280-1
・Sultana、M。、A Suzuki、S Numata、A Aziz、A Palash。(2022) The killing of Fishing Cat Prionailurus viverrinus (Bennett、1833) (Mammalia: Carnivora: Felidae) in Hakaluki Haor、Bangladesh。Journal of Threatened Taxa。https://doi。org/10。11609/jott。7971。14。10。21903-21917

山﨑芽生、沼田真也（2022）登山計画書の提出率に影響する要因 南アルプスを事例に　観光科学研究　1-8

仁平　尊明 Takaaki NIHEI

学会発表

Nihei, T. 2022. Issues and problems of multivariable analysis on agricultural regionalization in Japan: cases of agricultural regionalizations in Japan and the Hokuriku district in 2000. The 15th General Meeting of Japan Association on Geographical Space (Epochal Tsukuba International Congress Center). (presented in Japanese)

論文・図書等

Nihei, T. 2022. Book review: "100 regional problems in the world" by Urushibara, K., Fujitsuka, Y., Matsuyama, H. and Ohnishi, K. Geographical Space, 15, 84-86. (written in Japanese)

Mollah, T. H., Tahsin, M., Mohammad, N., Mollah, N., Hasan, Md. R. and Nihei, T. 2022. Exploring role of local NGOs in agriculture: a GIS based study along the Jamuna River, Bangladesh. The Jahangirnagar Review: Part II: Social Science, XLV, 151-170.

Nihei, T. 2022. The endogenous power of the region (I-III). Campus Note, 1, HTTP://2242.MOOO.COM/NOTE/INTRIN

Nihei, T. 2022. Problems of statistic analysis of agricultural regionalization. Campus Note, 2, HTTP://2242.MOOO.COM/NOTE/PROB

Teikoku Shoin editorial board 2022. High school new detailed atlas: teaching and research. Tokyo: Teikoku Shoin. (written in Japanese)

Teikoku Shoin editorial board 2022. High school standard atlas: teaching material. Tokyo: Teikoku Shoin. (written in Japanese)

Nihei, T. 2022. Hokkaido atlas and gazetteer: 0.2 (preliminary edition). Tokyo: Laboratorio de Geografia. HTTP://2242.MOOO.COM/HOKKAIDO/02.PDF

Nihei, T. 2022. Hokkaido atlas and gazetteer: 1.1 (Figure 1).Tokyo: Laboratorio de Geografia. HTTP://2242.MOOO.COM/HOKKAIDO/11

Geographical study on the establishment of endogenous regional development. (JSPS Grant-in-Aid from 2021).

Establishment of geographical laboratory for South Asian regional studies. (JSPS Grant-in-Aid, applied).

大澤　剛士 Takeshi OSAWA

学会発表

1. 保全、教育、研究、交流の場となる大学敷地内の緑地 . 日本生態学会第 70回大会 . 2023年 3月

2. 種の多様性と温度低減効果の関係の検討 . 日本生態学会第 70回大会 . 2023年 3月

3. 文化的生態系サービスに地域性が及ぼす影響 . 日本生態学会第 70回大会 . 2023年 3月

4. 急速に分布域を広げる外来昆虫ヨツモンカメノコハムシの拡大要因 . 日本生態学会第 70回大会 . 2023年 3月

5. そ外来種アオマツムシによる騒音が在来の鳴く虫に及ぼす影響 . 日本生態学会第 70回大会 . 2023年 3月

6. ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電)による半自然草原維持の可能性 . 日本生態学会第 70回大会 . 2023年 3

7. 多面的機能の観点から OECM候補となる農地を推定する . 日本森林学会第 134回大会 . 2023年 3月

論文、図書・報告書

Tamura Y , Osawa T, Tabuchi K, Yamasaki K, Niiyama T, Sudo S, Ishigooka Y, Yoshoka A, Takada MB (2022) Estimating plant-insect interactions under climate change with limited data.Scientific Reports 12:10554.

Osawa T (2022) Evaluating the effectiveness of basin management using agricultural land for ecosystem-based disaster risk reduction.International Journal of Disaster Risk Reduction 103445.

Ohata S , Osawa T, Sato N, Tsutsumida N (2022) Large, concealed islands in the urban sea: Scattered surrounding green space enhances the quality of grassland habitats in urban parks, Tokyo.Urban Ecosystems.

佐々木 翔哉 , 大澤剛士 (2022) 東京都南多摩地域における疥癬症に感染したタヌキの活動時間 . 保全生態学研究 27:275-281.

Baba YG , Osawa T, Kusumoto Y, Tanaka K (2023) Multi-spatial-scale factors determining the abundance of frogs in rice paddy fields and their potential as biological control agents.WETLAND.

高木　悦郎 Etsuro TAKAGI

論文（査読付き）

Takagi, E. (2022) Host preference of the tree-killing bark beetle Polygraphus proximus across a geographic boundary separating host species. Entomologia Experimentalis et Applicata, 170, 1001-1007.

Köbayashi, K., Iguchi, K. & Takagi, E. (2022) Number of gallery arms of the tree-killing bark beetle Polygraphus proximus (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae). Journal of Asia-Pacific Entomology, 25, 101929.

坂本　優紀 Yuki SAKAMOTO

学会発表

中村瑞歩, 山下亜紀郎, 坂本優紀, 静岡県三島市の水辺空間における地域住民の場所イメージと環境行動, 日本地理学会 2023年春季学術大会, 東京都立大学, 2023年 3月.

Shimpo, N., Sakamoto, Y., Otsuka, K. and Mizuuchi, Y. Exploring new methods for sustainable forest management through forest rental businesses, 2022 Korea-Japan Rural Planning Symposium, Korea, 2022年 11月.

新保奈穂美, 坂本優紀, 大塚啓太, 森林の新たな価値創造・管理・活用に向けた森林レンタル事業,日本造園学会2022年度全国大会, 北海道大学, 2022年 6月.

坂本優紀, 校歌と地域―東京都八王子市の小・中学校の事例―, 第 15回地理空間学会, つくば国際会議場, 2022年 6月.

論文、図書・報告書

論文（査読付き）
坂本優紀, 濱泰一（2022）, 校歌が歌う地域と時代―東京都八王子市の市立小・中学校の事例― , 地理空間, 15（2）, pp.119-129.

報告書
坂本優紀, 瀧戸啓一, 陳書誼, 帰凱悦, 鄭妤婷（2023）：長野県松本市周辺地域におけるエレキギター製造産業の展開, 地域研究年報, 45, pp.15-29.

清水　哲夫　Tetsuo SHIMIZU

学会発表

Shimizu, T. and Nguyen, V. T.: Development of Accommodation Statistics for Small Regions: Case of Japanese Destination Management Organizations (DMOs), 52nd Travel and Tourism Research Association, 2022年 6月 14日, オンライン

清水哲夫：観光分野における新技術対応とその地域展開，第 37回日本観光研究学会全国大会, 2022年 12月 17日, 金沢

査読付き論文

Wu, L. and Shimizu, T.: Analysis of the impact of non-compulsory measures on human mobility in Japan during the COVID-19 pandemic, Cities, Vol.124, 2022., https://doi.org/10.1016/j.cities.2022.103751

Shimizu, T. and Nguyen, V. T.: Development of Accommodation Statistics for Small Regions: Case of Japanese Destination Management Organizations (DMOs), Travel and Tourism Research Association: Advancing Tourism Research Globally, 84, 2022. https://scholarworks.umass.edu/ttra/2022/researchabstract/84/

Nurzafirah, D. and Shimizu. T.: Effective Resources to Mobilize Women Entrepreneurship: A Success Case Study of Family Tourism Businesses in Tioman Island, Malaysia, Sustainability, Vol.14, No.15, 9133, 2022., https://doi.org/10.3390/su1415913

Tiku, O. , Shimizu, T. and Hartono, D.: Tourism' s income distribution in West Papua Province, Annals of Tourism Research Empirical Insights, Vol.3, No.1, 2022., https://doi.org/10.1016/j.annale.2022.100038

Vu, A., T., Nguyen, V. T., Shimizu, T. and Nguyen, N., A. : Public transport service quality: Policy prioritization strategy in the importance-performance analysis and the three-factor theory frameworks, Transportation Research Part A: Policy and Practice, Vol. 166, pp. 118-134, 2022, https://doi.org/10.1016/j.tra.2022.10.006

久保田祐輝, 大平悠季, 清水哲夫：注意機構を用いた Graph Convolutional Networksによる短期的将来滞在人口数推計, 情報処理学会論文誌, Vol.64, No.1, pp.189-199, 2023.

解説記事・論説文

清水哲夫：" Tourism×カーボン・ニュートラル"～観光部門に突きつけられる難題，x Tourism（JTB総合研究所 Webコラム）, 2022. https://www.tourism.jp/tourism-database/column/2022/07/carbon-neutral/

川原　晋　Susumu KAWAHARA

口頭発表

千葉優美子 , 川原 晋 , 野田満（2022）「住民関与の実態とまちづくり活動への展開から見るアーティスト・イン・レジデンスの潜在的意義　ー茨城県守谷市「アーカスプロジェクト」におけるアーティスト滞在期間外の取り組みに着目してー」,日本都市計画学会 大会 2022.10 DOI: https://doi.org/10.11361/journalcpij.57.682

山田大樹 , 田中滋夫 ,川原晋 , 佐藤滋（2022）「嘉隆帝陵墓の天授局圖本が描く景観領域を踏まえた歴史的景観の保全計画範囲の試論 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (29)」日本建築学会大会 2022(都市計画),2022.09

佐藤滋 , Zamarbide, Alba, 山田大樹 , 川原晋 , 田中滋夫（2022）「香江流域圏における HUEM (Holonic Unit for Environment Management)と バッファーの組み合わせによる マネジメント計画の方法論に関する検討ーヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (30)ー」日本建築学会大会 2022(都市計画),2022.09

論説

川原晋（2022a）「観光まちづくりの具体的な進め方 ～地域観光プランニングの提唱～」, ホテル未来会議 取材記事 , 週刊ホテルレストラン別冊 ホテルをつくるレシピ vol.2 2022 Spring Issue. 掲載

川原晋（2022b）「個性を活かした観光地域づくりの進め方 考」,全国市町村会 第 84回全国都市問題会議「個性を活かして『選ばれる』まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」 文献集 , 寄稿 , 2022.10 @長崎市

福永裕美 , 川原 晋 , 益尾孝祐（2022）：生活者による DIY的景観向上を目指して：長門湯本温泉「おてがるリノベパンフレット」の手法 , 農村計画学会誌 41 (1), 14-17, 2022-06

川原晋（2022c）「欧州で最もサスティナブルな島のシンボル Hotel GSHの挑戦」,日本交通公社機関誌「観光文化 256号：不動産再生から観光地づくりを考える」, 寄稿 , 2023.02

川原 晋 ,内田純一「『不動産再生による観光地づくり』をどう見るか」, 日本交通公社機関誌「観光文化 256号：不動産再生から観光地づくりを考える」, 対談 , 2023.02

論文査読あり

千葉優美子，川原 晋，野田満（2022）「住民関与の実態とまちづくり活動への展開から見るアーティスト・イン・レジデンスの潜在的意義　－茨城県守谷市「アーカスプロジェクト」におけるアーティスト滞在期間外の取り組みに着目して－」,日本都市計画学会 都市計画論文集 Vol.67, 2022.10, pp.682 - 689

録画公開講座

「いまこそ観光まちづくり～コロナ禍で見えてきたこれからの観光～」,東京都総務局 ,東京リカレントナビ ,2022.04

「観光と景観デザイン～地域らしさの表現から観光シーンづくりまで～」,東京都総務局 ,東京リカレントナビ ,2022.04

「目的達成や商品磨き上げに活かせる事業検証方法とは ?」,観光庁 地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業 , 採択団体向け講座 2022.06

公開作品等

景観絵本「八王子まちなか景観みらいものがたり」、代表ディレクター：川原晋、八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ、景観デザイン会議、編集発行　八王子市まちなみ整備部まちなみ景観課 , 2022.08,
全文は八王子市ＨＰで公開　https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/006/001/004/p027594.html

プロジェクターマッピング模型展示コンテンツ『八王子産食材で作るお酒とおつまみ』,八王子市桑都日本遺産センター 八王子博物館（愛称：はちはく）設置 , 2022.04

岡村　祐　Yu OKAMURA

学会発表

渡辺安菜・岡村祐・篠朱莉・菅井純也（2022）：御師集落の観光化に関する事例調査 ―御岳山・羽黒山・大山・戸隠御師集落の立地や施設整備状況に着目して―，日本観光研究学会全国大会，金沢大学，2022年 12月

園木優美子・岡村祐（2022）：歴史的町並み地区におけるまちづくり団体の 古民家保全活動に起因する移住・定住の実態　-福岡県八女市八女福島地区を対象として -，日本観光研究学会全国大会，金沢大学，2022年 12月

神谷圭祐・岡村祐・野原卓・山岸匠（2022）：産業類型に着目した工場一斉公開プログラム「オープンファクトリー」の開催目的と実施内容，日本建築学会大会学術講演会，北海道科学大学（オンライン），2022年 9月

林睦・渡辺安菜・岡村祐・野原卓（2022）：住工混在地域東京都大田区における SDGsツアーの開発と参加者の評価　- おおたオープンファクトリー2021でのモニターツアーの実施を通して - ，日本建築学会大会学術講演会，北海道科学大学（オンライン），2022年 9月

渡辺安菜・岡村祐（2022）：御師集落の観光推進と文化継承に関する研究　－東京都青梅市御岳山御師集落を事例として－，日本建築学会大会学術講演会，北海道科学大学（オンライン），2022年 9月

篠朱莉・谷藤健太・手代木茜・平野里穂・岡村祐・野原卓・神谷圭祐・山岸匠（2022）：コロナ禍における工場一斉公開「オープンファクトリー」のオンライン化の効用と限界　－東京都大田区におけるおおたオープンファクトリーを事例に－，日本建築学会大会学術講演会，北海道科学大学（オンライン），2022年 9月

谷藤健太・岡村祐（2022），エスニックタウンにおける地域資源と地域共生イベントとの関係，日本建築学会大会学術講演会，北海道科学大学（オンライン），2022年 9月

Ying-Ju Zhang and Yu Okamura(2022): Rural Experiential Bookstores As A Strategy For Linking Urban And Rural In China. 16th International Congress of Asian Planning Schools Association (APSA), Bali, Indonesia(online), 2022.8

岡村祐・片桐由希子（2022）：埼玉県飯能市天覧山周辺の散策路と周辺地域の整備・開発・保全に関する一考察，2022年度日本造園学会研究発表会，北海道大学農学部，北海道札幌市，2022年 6月

査読付論文

山嵜一也・岡村祐（2022）：カメラによって選手・競技会場・都市景観を映し出す五輪景観の計画・実現の経緯 -2012 年ロンドン五輪を事例として - 日本建築学会計画系論文集 , 798　掲載決定

岡村祐・片桐由希子（2022）：埼玉県飯能市天覧山周辺の散策路と周辺地域の整備・開発・保全に関する一考察，ランドスケープ研究，85（5）掲載決定

手代木茜・岡村祐（2021）：海浜観光地における津波防災地域づくりに関する計画策定とその実行に観光事業者が果たす役割 ―伊豆市『観光防災まちづくり推進計画』を事例に―，日本建築学会技術報告集 , No.67, pp.1446-1451

論文（査読なし）

岡村祐（2021）：『2021年版観光白書』の概要とポイント Withコロナの観光動向と Postコロナを見据えた観光再生戦略，Monthly信用金庫，10月号，pp.48-52

岡村祐（2021）：With／Postコロナにおける持続可能な観光地形成，2021年度日本建築学会大会（東海）都市計画部門パネルディスカッション「ポストコロナに向けての観光地域の再生戦略」,日本建築学会、pp.3-6

関塚哲史・岡村祐（2021）：郊外住宅地駅周辺におけるエリアマネジメントの継続要因と今後の課題　-東京都八王子市南大沢駅周辺を事例として -，都市計画報告集，No.21，pp85-91

大平　悠季　Yuki OHIRA

論文（査読有）

久保田祐輝，大平悠季，清水哲夫，注意機構を用いた Graph Convolutional Networksによる短期的将来滞在人口数推計，情報処理学会論文誌, Vol.64, No.1, pp.189-199, 2023.

益子　智之　Tomoyuki MASUKO

学会発表

Tomoyuki Mashiko, Factors influencing post-earthquake reconstruction spatial transformations: An examination of the reconstruction of the historical centre in Venzone, Friuli region, Italy (1976-2006), 19th International Planning History Society Conference, Session 3.2 Strategies/Planning, Delft, 2022.7

岩城隼人・益子智之・有賀隆，町家景観の価値継承活動の実態と保全意識に及ぼす影響に関する研究 兵庫県姫路市野里地区を対象として，日本建築学会大会，7508，北海道科学技術大学，2022.7

北山寛之・益子智之・有賀隆，エスニックコミュニティ内の交流拠点とホスト社会との接点形成に関する研究 東京都新宿区高田馬場におけるミャンマーコミュニティを対象として，日本建築学会大会，7218，北海道科学技術大学，2022.7

笹原瑠生・益子智之・有賀隆，古建築修繕過程にみるソーシャル・キャピタルの構築実態と自律的地域空間再編の萌芽 愛媛県松山市三津浜地区を対象として，日本建築学会大会，7162，北海道科学技術大学，2022.7

査読付論文

Tomoyuki Mashiko(2022): Factors influencing post-earthquake reconstruction spatial transformations: An examination of the reconstruction of the historical centre in Venzone, Friuli region, Italy (1976-2006), International Planning History Proceedings, Vol.19, No.1, pp.685-686-10

加藤雅大・有賀隆・益子智之（2022）：利根川流域における水塚を利用した避難体制に関する研究，日本建築学会計画系論文集，Vol.87, No.798, pp.1475-1484

益子智之（2022）：地震災害からの復興都市計画の展開―その歴史と思想、実践，日伊文化研究，Vol.60, pp.49-59

論文（査読無）

益子智之・矢口哲也（2023）：複合災害を想定した地区回復シナリオを考える－地域協働復興の普及啓発事業での取り組み，都市計画，日本都市計画学会，Vol.72, No.1, p.4

図書

松浦健治郎・石村壽浩・内田晃・内田奈芳美・長聡子・益子智之：『ウォーカブルシティ入門 10のステップでつくる歩きたくなるまちなか』，学芸出版社，2022

平田　徳恵　Norie HIRATA

学会発表

平田徳恵・川原晋・海老沢結，観光コンテンツ造成事業の事業評価アンケートにおける支払意思額調査の活用 ：体験ツアー等の少人数回答における導入意義に着目して，日本建築学会大会学術講演会，オンライン，2022年 9月

図書・報告書

（査読付）
Norie HIRATA and Susumu KAWAHARA,"Blue Flag Beaches: Economic Growth, Tourism and Sustainable Management" Chapter19.The Status of Blue Flag in Japan: Can Blue Flag be used for beach community development as a sustainable tourist destination?, Routledge Publisher（Publication is scheduled for August 2023.）

論文

（審査有）
平田徳恵・川原晋・海老沢結（2022）：観光コンテンツ造成事業の事業評価アンケートにおける支払意思額調査の活用：体験ツアー等の少人数回答における導入意義に着目して，日本建築学会大会学術講演梗概集選抜梗概 pp.963-966.

Nguyen Van Truong Nguyen Van Truong

論文

Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, Kurihara Takeshi, Sun Kyung, “Accommodation Statistics: The Current Issues and an Innovation.” Current Issues in Tourism, vol. 25, no. 11, June 2022, pp. 1731–47. Taylor and Francis+NEJM, https://doi.org/10.1080/13683500.2021.1978951

Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, “MANAGEMENT OF NEGATIVE TOURISM IMPACTS: Vietnamese and Japanese Cities.” in “Managing Destinations: From Theories to Practices”, edited by Noel Scott and Jafar Jafari, 2022 (Accepted, Forthcoming), Emerald, 2022

Vu Anh Tuan, Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, Nguyen Ngoc An, “Public Transport Service Quality: Policy Prioritization Strategy in the Importance-Performance Analysis and the Three-Factor Theory Frameworks.” Transportation Research Part A: Policy and Practice, vol. 166, Dec. 2022, pp. 118–34. Science-Direct, https://doi.org/10.1016/j.tra.2022.10.006

[Conference paper] Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, “Development of Accommodation Statistics for Small Regions: Case of Japanese Destination Management Organizations (DMOs)”, Travel and Tourism Research Association: Advancing Tourism Research Globally, 2022, https://scholarworks.umass.edu/ttra/2022/researchabstract/84/

相原　健郎　Kenro AIHARA

学会発表

森田 佑菜 , 山本 岳洋 , 荘司 慶行 , 大島 裕明 , 山本 祐輔 , 神門 典子 , 相原 健郎 , 対話型鑑賞システム実現に向けた質問に答えさせることによる博物館鑑賞の印象付け , 第 15回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム DEIM2023, 2023年 3月

西本 海生 , 相原 健郎 , 神門 典子 , 荘司 慶行 , 山本 祐輔 , 山本 岳洋 , 大島 裕明 , 位置情報を用いたビンゴゲームによる共通点を持つ展示物の推薦 , 第 15回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム DEIM2023, 2023年 3月

西本 海生 , 相原 健郎 , 神門 典子 , 荘司 慶行 , 山本 祐輔 , 山本 岳洋 , 大島 裕明 , 位置情報を用いたビンゴゲームによる共通点を持つ展示物の推薦 , 第 15回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム DEIM2023, 2023年 3月

論文 査読付

Kenro Aihara.2022.Understanding Intra-Regional Flow of Vehicles Using Automatic License Plate Recognition, Distributed, Ambient and Pervasive Interactions. Smart Environments, Ecosystems, and Cities, Springer International Publishing,pp.127-138

日原　勝也　Katsuya HIHARA

学会発表

Hihara, K.,　" Analysis of a Platformer Economy with Network Externalities: A Pathway to a Sharing Economy," Proceedings (on-line) of the World Conference of Western Economic Association International, 2022.07

Hihara, K.,　"Analysis of Airlines' Digital Platformer Business under the Two-Sided Market Model" ATRS(2022年 8月アントワープ・オンライン),

鈴木美穂、狩野祐季、日原勝也、「観光の経済効果に関する地域間の非対称性に関する分析」、第 37回日本観光研究学会全国大会学術論文集 (2022年 12月)

論文

Medai, N., Okamoto, N., Ogasawara, Y., and Hihara, K. "Factors contributing to tourism demand at major Japanese hot springs", PLOS ONE 17(9):e0274681, 2022. (https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0274681)

Hihara, K.,　" Analysis of a Platformer Economy with Network Externalities: A Pathway to a Sharing Economy," Proceedings (on-line) of the World Conference of Western Economic Association International, 2022.07

Hihara, K.,　"Analysis of Airlines' Digital Platformer Business under the Two-Sided Market Model" ATRS(2022年 8月アントワープ・オンライン),

鈴木美穂、狩野祐季、日原勝也、「観光の経済効果に関する地域間の非対称性に関する分析」、第 37回日本観光研究学会全国大会学術論文集 (2022年 12月)pp.129-134

図書

Hihara, K. 2022年 6月 . "The Recent Development of Climate Change Mitigation in Aviation Sector". In: Chen et al. (ed) Handbook of Climate Change Mitigation and Adaptation 3rd ed., Springer, Switzerland, P 489-523. Editors Wei-Yin Chen, Maximilian Lackner.

倉田　洋平　Yohei KURATA

学会発表

山岸玲司・倉田陽平，観光資源ガチャによるセレンディピティのある観光誘発の検証，観光情報学会第 23回研究発表会，長崎県立大学，2023年 3月

吉田伊武貴，倉田陽平，大量の宿泊レビューから見る，宿泊者の属性と宿泊施設タイプごとの満足度と不満との関係性，観光情報学会第 23回研究発表会，長崎県立大学，2023年 3月

堀健一朗，鈴木祥平，倉田陽平，観光協会の YouTubeチャンネルが提供する動画の現状報告～2017年と 2023 年の調査結果の比較～，観光情報学会第 23回研究発表会，長崎県立大学，2023年 3月

倉田陽平，協働による東海地方のヴァーチャルツアーのコンテンツ拡充とヴァーチャルツアー中の周囲見回し行動を誘発させる試み ,第 9回とうかい観光情報学研究会，熱海，2023年 2月

Wu Lingling Wu Lingling

学会発表

Nagi Medai, Lingling Wu, 博物館バーチャルツアーと実際の訪問行動の相互関係についての研究, 第 37回日本観光研究学会全国大会

論文、図書・報告書

Lingling WU, and Tetsuo SHIMIZU. (2022). Analysis of the impact of non-compulsory measures on human mobility in Japan during the COVID-19 pandemic. Cities, 127, 103751.

小笠原　悠 Yu OGASAWARA

学会発表

Yosuke Yamamoto, Kimitoshi Sato, Yu Ogasawara, Tourism supply chain, The 22nd Asis Pacific Industrial Engineering and Management Systems, 2022/11/07.

Yu Ogasawara and Kimitoshi Sato, Optimal Bundling Strategy for Nested Service Demand, The 22nd Asis Pacific Industrial Engineering and Management Systems, 2022/11/08.

小笠原悠, 佐藤公俊, 周縁地域のバンドル販売による収益管理, 第 37回日本観光研究学会全国大会, 2022/12/18

小笠原悠, 区間値データに対する Ward法とその応用, 日本 OR学会確率最適化とその応用研究会, 2023/01/27

小笠原悠, 浅沼美由希, 糟谷昌志, 相馬優樹, 外食メニューの栄養バランスと価格の関係について, 日本 OR学会ヘルスケアの OR研究会, 2023/02/04.

論文 査読付

Ogasawara, Y. (2022). New seasonal measurement with stability and clustering seasonal patterns: A case study in Japan from 2011 to 2019. Plos one, 17(4), e0267453.

Medai, N., Okamoto, N., Ogasawara, Y., & Hihara, K. (2022). Factors contributing to tourism demand at major Japanese hot springs. Plos one, 17(9), e0274681.

阿曽　真紀子 Makiko ASO

学会発表

阿曽真紀子、サービスプロセスの創造性―サービスエンカウンターにおけるサービス従業員のサービス品質認知―、日本マーケティング学会カンファレンス、オンライン発表、2021年 10月

04 特定学術研究
Research Summary

4-1. 自然環境マネジメント領域

沼田　真也　Shinya NUMATA

2020年度　科研費　挑戦的萌芽（研究代表者）「自然保護地域の持続的管理に寄与するバーチャルハンティングプログラム開発」実施中

2020年度～　SATREPS（地球規模の環境課題の解決に資する研究）　研究分担者「マレーシア国サラワク州の保護地域における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発（京大・市岡孝朗）」

大澤　剛士　Takeshi OSAWA

継続課題

基盤研究 C（一般）：自然生態系と連続した土地利用はハビタットの質を引き継ぐか?. 2020年～ 2022年度（代表）

基盤研究 A（一般）：動物リレーモデルに基づく野生動物由来感染症拡大予測. 2020年～ 2022年度（分担）

新規採択

基盤研究 B（一般）ツキノワグマの駆除地域での管理ユニット策定と絶滅危機個体群での有害遺伝子の評価 . 2022年度～2024年度（分担）

環境研究総合推進費（サブテーマリーダー）

水源地生態研究会（水源地環境センター）

農林水産省農林水産政策研究所連携スキーム

高木　悦郎　Etsuro TAKAGI

科研費　若手研究：樹皮下キクイムシの産卵選好性と寄主利用能力およびその地理的変異の解明．2019年度－2023年度（代表）

坂本　優紀　Yuki SAKAMOTO

若手研究，「音楽する都市」における音楽の実践と資源化に関する地理学的研究, 2022-2025年度（代表）

受託研究，公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団，八王子市内アートフェスティバルの効果測定，2022-2023年度（代表）

2022年度学術研究助成，公益財団法人国土地理協会，森林レンタル事業がもたらす新たなライフスタイル像と森林経営・管理方法の解明, 2022-2023年度（分担）

2022年度学術研究助成，公益財団法人国土地理協会，人・水・熱・音からみた都市の水辺空間の総合的評価，2022-2023年度（分担）

令和 4年度研究開発助成，公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団，地域社会を主体とした自然観光資源の保全と観光利用に関する研究, 2022年度（代表）

2022年度研究助成，公益財団法人たばこ総合研究センター，農山村地域におけるマイクロワイナリーとワインの地域資源化に関する研究, 2022年度（分担）

2021年度学術研究助成，公益財団法人国土地理協会，外来音楽の地域資源化から捉える音楽と地域の関係性，2021-2022年度（代表）

04 特定学術研究
Research Summary

4-2. 地域計画・マネジメント領域

清水　哲夫 Tetsuo SHIMIZU

基盤研究 B「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」（研究代表者：清水哲夫，2020～2023年度）
基盤研究 B「持続可能な観光のための戦略的オーバーツーリズム対処療法の構築」（研究代表者：岡本直久筑波大学教授，2022～2025年度）
基盤研究 C「観光混雑回避に向けた自発的行動変容を促すゲーミフィケーション導入に関する実証研究」（研究代表者：楽奕平東芝浦工業大学准教授，2020～2022年度）

東京都産業労働局観光部委託事業「観光経営人材育成事業」（実施代表者：清水哲夫，2017～2023年度）
東京都産業労働局観光部委託事業「観光統計データおよびオウンドメディアに係るアクセスログ等の活用に関する研究」（実施代表者：清水哲夫，2022～2023年度）

川原　晋 Susumu KAWAHARA

基盤 B「観光地域づくり資するイベント・レガシーの戦略的形成に関する研究」2023年度採択、研究代表者

基盤 A「観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術『地域観光プランニング』の詳細化と実装化」2017年度～2022年度、研究代表者

基盤 B「持続可能な観光地域形成パッケージの国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究」2022年度～、研究分担者（研究代表者 :岡村祐 東京都立大学）

基盤 B「持続可能な観光地域形成パッケージの国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究」（研究代表者 :岡村祐 東京都立大学）

基盤 B「ベトナム香江流域圏における歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築」2019年度～2022年度、研究分担者（研究代表者 :佐藤滋 早稲田大学）

萌芽研究「地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷」2020年度～2022年度、研究分担者（研究代表者 :岡崎篤行 新潟大学）

【受託研究：八王子市 まちなみ整備部 まちなみ景観課】「まちなか将来像の実現に向けたスキーム提案業務」,受託組織：川原晋研究室，2022.08 - 2023.3

岡村　祐 Yu OKAMURA

【採択状況（新規）】
基盤研究（B）：持続可能な観光地域形成パッケージの国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究（代表　東京都立大学　岡村祐），研究代表者，R4-7（採択）

基盤研究（B）：ポスト・オーバーツーリズム期における脱成長型観光政策の実装に向けた包括的研究（代表　龍谷大学　阿部大輔），研究分担者，R4-6（採択）

【採択状況（継続）】
挑戦的研究（萌芽）：地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷（代表　新潟大学　岡崎篤行），研究分担者，R2-4

基盤研究（C）：生活都市のビジョンの共実現と持続可能な観光の連動的な展開（代表　金沢工業大学　片桐由希子），研究分担者，R2-4

基盤研究（C）：都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性，（代表　東京都立大学　岡村祐），研究代表者，H30-32（R5まで延長）

大平　悠季 Yuki OHIRA

科研費 若手研究：テレワーク普及下の社会経済活動の集積・分散メカニズムに関する数理モデル研究，令和 3-5年度（代表）

科研費 基盤研究（B）：EBPMに向けた交通インフラ・ストック効果計測手法の確立と事後評価への展開，令和 2-4年度（分担）

科研費 基盤研究（B）：データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発，令和 2-4年度（分担）

科研費 基盤研究（C）：自殺予防因子の探索およびその普及と定着の方法に関する研究，令和 3-5年度（分担）

益子　智之 Tomoyuki MASHIKO

科研費 若手研究：イタリアにおける「共編集」概念を用いた都市デザイン手法の開発，令和４年ー７年度（代表）

科研費 研究活動スタート支援：避難者ニーズと地域特性に適した動的な居住計画手法の構築，令和２年ー４年度（代表）

平田　徳恵 Norie HIRATA

科研費 若手研究：観光政策立案実践の為に自治体職員に必要となる専門スキル把握と教育プログラムの提案 ，2018ー2022年度（研究代表者）

科研費 若手研究：住民主体の観光地域づくり推進に向けた色の活用による地域学習プログラムに関する研究，2022ー2024年度（研究代表者）

Nguyen Van Truong Nguyen Van Truong

Grant-in-Aid for Young Scientists: Tourism impacts of the Covid-19 pandemic and strategies for the recovery. Principal Investigator. Ongoing.
Tourist satisfaction - loyalty and resident perception in over-tourism context: Possible policies to promote tourism and enhance community satisfaction. Principal Investigator. Extension-Ongoing.

04 特定学術研究
Research Summary

4-3. 行動経営科学領域

相原　健郎 Kenro AIHARA

科研費 基盤研究（B)（一般）： 観光実態把握のためのミクロ流動把握のモデル化と方法論，令和 4-7年度（代表）

受託研究費（一般社団法人ソシオ・エンジン・プロジェクト）：ミクロ行動把握による高齢者の福祉向上への活用と UAV連携の検討，令和 3-4年度（代表）

日原　勝也 Katsuya HIHARA

2020年度　研究分担者　基盤研究（B)「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」を分担者として獲得。継続中

2019年度　科研費　研究代表者（若手）「観光振興主体・空港・航空会社間のﾘｽｸｼｪｱﾘﾝｸﾞ・ﾒｶﾆｽﾞﾑに関する研究」を獲得。継続中

2016年度　研究代表・基盤研究（C），「リスク分配契約に関する研究－航空分野を中心に」，
研究代表者 日原勝也

2013年度　研究代表・基盤研究（C），「航空分野におけるリスク分配メカニズム（契約）に関する研究」，研究代表者 日原勝也

倉田　洋平 Yohei KURATA

科研費基盤研究（C）「膨大なツイートから解き明かす種々の旅のリスクの地域性・時空間特性の分析」, 2021-2025（代表）

日立財団倉田奨励金「膨大な位置情報付きツイートから地域課題は見つかるか？」2022-2023（代表）

Wu Lingling Wu Lingling

東京都立大学傾斜的研究費（部局分）若手奨励経費：旅行制約における観光代替品としてバーチャルリアリティ（VR）を開発に関する研究、2021（代表）

05 学生教育
Student education

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

5-1. 所属学生

2022 年度は学部生 127 名，大学院生 43 名の計 170 名（うち留学生は 16 名）が在籍した。

学部生

1 年 31名，2 年 30名，3 年 32名，4 年 34名が当学科に在籍した。

博士前期課程（修士課程）

修士課程 1 年22名うち留学生 5 名，
修士課程 2 年11名うち留学生 2 名が当学科に在籍した。

博士後期課程（博士課程）

博士課程 1 年 7 名うち留学生 5 名，
博士課程 2 年 1 名，
博士課程 3 年 10名うち留学生 4 名が当学科に在籍した。

5-2. 研究室への配属（指導教官）

4 年以上 77 名の学生の配属先研究室（指導教官）は右表のとおりである。

各研究室所属の学生数

領域	研究室	卒論生	修士課程	博士課程	計
自然	沼田　真也	4	7	5	16
自然	仁平　尊明	4	1	1	6
自然	大澤　剛士	3	2	1	6
自然	坂本　優紀	1	0	0	1
計画	清水　哲夫	4	3	2	9
計画	川原　晋	2	5	1	8
計画	岡村　祐	2	5	1	8
計画	大平　悠季	1	0	0	1
行動経営	相原　健郎	4	0	0	4
行動経営	日原　勝也	3	3	0	6
行動経営	倉田　陽平	2	5	0	7
行動経営	Wu Lingling	4	1	0	5

5-3. 学位論文

修士論文

所定の審査を受け、下表に示す 10名の修士論文が合格した.

氏名	論文タイトル	主査
海老沢　結	地域産業との連携による観光コンテンツ造成のための事業チームの形成とその持続性 ーチームを構成する個人が保有するスキルや資源に着目してー	川原　晋
工藤　実倫	伊豆半島ジオパークにおけるジオガイドツアーの実態と問題	仁平　尊明
林　睦	建築公開プログラムを通じたモダニズム建築の魅力発信手法に関する研究 —オープンハウス型とネットワーク型に着目して—	岡村　祐
目代　凪	博物館バーチャルツアーと実際の訪問行動の相互関係についての研究	Wu Lingling
吉田　伊武貴	宿泊施設利用者の属性や宿泊施設の種類によって不満項目と顧客満足度との関係はどう変わるのか？ ～宿泊予約サイトにおける大量の顧客レビューを基にした分析～	倉田　陽平
陸川　早紀	小中学校教員の生物多様性に対する認識とその教育実践	沼田　真也
渡辺　安菜	長野県戸隠における御師文化を活かした観光への取り組みとその文化継承への影響	岡村　祐
高　ヨウヨウ	着物着用が観光行動や日本文化への関心に与える影響に関する研究 ～川越中心市街地におけるまちあるき観光を対象として～	川原　晋
手塚　真人	多様な区分の文化財建築物を活用した宿泊・店舗・体験事業の面的展開に関する研究 ～大洲市での官民連携による複数事業の一体的計画と実現を支える事業基盤に着目して～	川原　晋
Ni　Rongxia	Factors affecting the littering behavior in urban parks: A case study of urban parks in Southeastern Hachioji, Tokyo	沼田　真也

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

5-3. 学位論文

卒業論文

所定の審査を受け、下表に示す 34名が卒業論文を提出した

氏名	論文タイトル	主査
佐保　百合	オンラインツアーの参加意向に影響を与える心理的要因のデモグラフィック要因別の分析	Wu Lingling
阿部　遥	テレワーク従事者における余暇の活用 -UWESスコアとの関連に着目して -	相原　健郎
永野　沙代子	糸魚川におけるヒスイの保全と観光利用に関する研究	仁平　尊明
須藤　初音	演劇創作過程にみる地域資源再価値化手法に関する研究 -主に練馬区で活動する劇団uniを事例として -	川原　晋
杉本　菖武	急速に分布域を広げる外来昆虫ヨツモンカメノコハムシの拡大要因	大澤　剛士
並木　優一朗	生物多様性保全への取り組みが企業価値に与える影響	沼田　真也
高橋　佑太朗	モバイル空間統計による地域の滞在人口特性の分析 -今後の地域公共交通政策への貢献を目指して -	清水　哲夫
權藤　理子	里山継承ゲーミングを用いた世代間倫理に関する研究	沼田　真也
安藤　亜沙子	グラフィティと都市空間の関連に関する研究 —池袋駅周辺を対象として -	仁平　尊明
阿部　潤	東京都の DMOウェブサイトアクセス数がインバウンド観光需要に与える影響	Wu Lingling
山口　朝美	クロヤツシロランの生育地からみる竹林環境のハビタットとしての有用性	大澤　剛士
牛島　滉基	住宅団地の活動拠点施設における公民学連携に関する研究 -運営における民間企業の参画に着目して -	岡村　祐
椿　友菜	西表島における観光がイリオモテヤマネコのロードキルリスクに与える影響	沼田　真也
長岡　寛人	土地利用履歴と局所要因がカエルの分布パターンに及ぼす影響	大澤　剛士
渡部　寛太	同伴者の存在がクーポン使用意図に与える影響 -同伴者属性とクーポン獲得方法による比較 -	Wu Lingling
大久保　佐和	飲食店における行列形成のための要素分析	相原　健郎
薮田　亮	ストリートダンスジャンル KRUMPにおける文化伝播の実態と要因	仁平　尊明
鈴木　美穂	観光の経済効果に関する地域間の非対称性についての分析	日原　勝也

5-3. 学位論文

卒業論文

氏名	論文タイトル	主査
坂本　瑞歩	航空機の利用選択における潜在的な影響について -景色と座席に着目して -	相原　健郎
佐藤　誓	大規模鉄道駅における案内サイン連続性の定量評価方法に関する基礎的研究 -新宿駅と池袋駅での検証 -	清水　哲夫
飛松　涼太	経路上でのわかりやすさ・安心感の評価に対するインテグレーション値の適用可能性について -街路ネットワーク特性に応じた歩行時目的地案内の有効性向上に向けて -	清水　哲夫
佐藤　知彩樹	聖地巡礼における制約要因 -アニメに対する意識の違いによる比較 -	Wu Lingling
大谷　清夏	園芸ボランティア活動参加者の参加動機・満足度及び継続意思に関する研究 -多摩市アダプト制度を事例に -	沼田　真也
竹中　友麻	CO VID-19に対する制限措置下における東京都民の旅行意向について	日原　勝也
山岸　玲司	セレンディピティをもたらす観光資源提示手法の提唱と評価	倉田　陽平
宮本　美咲	東京 2020オリンピック・パラリンピック開催時の首都圏高速道路ネットワークにおける経路選択行動の分析 -観光利用が卓越する出入口区間に着目して -	清水　哲夫
恒藤　真生	クレジットカード決済データを用いた新型コロナウイルス感染症流行下での観光関連消費行動変化の分析	大平　悠季
江原　要	現状調査を踏まえた寺院と利用者の視点からみる寺カフェへの認識に関する考察	仁平　尊明
清水　航	ジオタグ付きツイートデータから見る深夜観光行動の分析と考察 -深夜の滞在地点の行動例の調査に関する手法の提示と有用性 -	倉田　陽平
髙橋　花那子	地方滞在型インターンシップ参加者の再訪要因に関する研究 ～コーディネーターの役割に着目して～	川原　晋
岩下　将士	Jリーグ観戦者の満足度・観戦意向を向上させる要因に関する研究	日原　勝也
蕪木　文香	ラゲッジフリーを実現する旅行者行動支援に向けて ―旅行中の手荷物のわずらわしさとその影響	相原　健郎
阿部　寛由	商品の生産過程で表出するローカリティ ―岐阜県郡上市平野醸造の日本酒を事例として―	坂本　優紀
菅井　純也	空間・産業特性を生かした問屋街の都市更新手法に関する研究 -中央区日本橋横山町・馬喰町問屋街における同業者組織を中心とした取り組みに着目して -	岡村　祐

06 社会貢献
Social contributions

6-1. 自然環境マネジメント領域

沼田　真也　Shinya NUMATA

- 日本生態学会キャリア支援専門委員会　委員（2020-）
- 文部科学省　科学技術・学術政策研究所　科学技術予測センター　専門調査員　2014年 4月～
- 八王子市環境審議会　委員・会長　2020年 4月～
- 多摩市みどりと環境審議会　委員・会長　2020年 12月～
- その他、審査、アドバイス等

仁平　尊明　Takaaki NIHEI

- Member, Editorial Board, Japan Association on Geographical Space.
- Secretary, Editorial Board, Hokkaido Geographical Society.
- Representative, Association of Japanese Geographers.
- Member, Qualification Committee, Association of Japanese Geographers.
- Member, Academic Award Selection Committee, Association of Japanese Geographers.
- Member, Academic Award Selection Committee, Japan Association on Geographical Space.
- Writing of the textbook for junior high school inspected by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.
- Writing of the textbook for high school inspected by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.
- Engaged in green space maintenance activities in cooperation with Hachioji City and Tokyo Metropolitan Government.

大澤　剛士　Takeshi OSAWA

- 環境省「気候変動適応における広域アクションプラン策定事業」東北地域アドバイザー
- 環境省「自然生態系を基盤とする防災・減災の推進に関する検討会」委員
  環境省「自然環境保全基礎調査に係る基本方針検討会」委員
- 環境省「30by30に係る生物多様性の見える化手法検討」委員
- 国土交通省「河川水辺の国勢調査に関する検討会」委員　DXワーキング座長
- 国立情報学研究所「学術研究プラットフォーム運営・連携本部研究データ基盤運営委員会」委員

高木　悦郎　Etsuro TAKAGI

- Journal of Forest Research,　Editor

坂本　優紀　Yuki SAKAMOTO

- 日本地理学会，総務専門委員
- 日本地理学会，2023年春季学術大会実行委員
- 地理空間学会，集会委員

06 社会貢献
Social contributions

6-2. 地域計画・マネジメント領域

清水　哲夫　Shimizu Tetsuo

学外役職
- (公社)日本観光振興協会総合調査研究所所長兼日本観光振興アカデミー学長

学会活動
- 交通工学研究会査読委員会委員
- 日本観光研究学会理事兼編集委員会委員長
- 土木学会土木計画学研究委員会多様な地域課題を解決する道路交通・ITS事業形成に向けた研究ネットワーク構築小委員会委員長

有識者委員等
- カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリッション地域ゼロカーボンWG東京都立大学代表（文部科学省，経済産業省，環境省）
- 金沢大学人間社会研究域付属先端観光科学研究センターアドバイザー
- 観光統計の整備に関する検討懇談会委員（観光庁）
- 地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業に関する事業支援有識者（観光庁）
- インバウンド受入環境整備高度化事業有識者委員会委員（観光庁）
- 観光圏整備に関する検討会委員長（観光庁）
- 地域道路経済戦略調査研究会委員（国土交通省道路局）
- インフラツーリズム有識者懇談会座長（国土交通省総合政策局）
- 南大沢スマートシティ協議会座長
- 利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議委員兼水辺空間活用ワーキング主査（東京都）
- 都営交通の経営に関する有識者会議座長（東京都）
- 町田市交通安全行動計画策定および推進委員会委員長
- 立川市第三次観光振興計画協議会委員
- 多摩都市モノレール町田方面延伸沿線まちづくり検討会会長（町田市・多摩市）
- 浅草地区まちづくりビジョン策定委員会副会長兼基盤整備部会長（台東区）
- 首都高の料金に関する懇談会委員（(株)首都高速道路）
- 首都高交通量推計手法検討委員会委員兼幹事長（(株)首都高速道路）
- 町田市交通安全行動計画策定および推進委員会委員長
- 大田区交通政策基本計画推進協議会副会長
- 地域連携推進団体協議会アドバイザー（(一財)国土計画協会）
- 全国観光圏推進協議会アドバイザー
- ブランド戦略会議およびインバウンド・二次交通検討会議アドバイザー（(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント）
- サステナブルツーリズム推進センター委員（(一財)アジア太平洋観光交流センター）
- ツーリズムEXPOジャパン2022実行委員会委員兼国際会議部会長
- ツーリズムEXPOジャパン2023実行委員会委員兼国際会議部会長
- 2050年の日本を支える公共交通のあり方検討委員会地域間交通小委員会委員（(一財)運輸総合研究所）
- 観光・インバウンド専門委員会学識委員（日本商工会議所）

講演
- インバウンドビジネスと地域活性化～福岡の立ち位置と取り組むべき課題，(公社)日本青年会議所福岡ブロック協議会50回福岡ブロック大会
- つくし大会「インバウンドビジネスにおける福岡の価値向上」セッション，2022年6月5日
- 東京の舟運と水辺空間の活性化に対する期待，第一回東京湾舟運活性化検討会基調講演，2023年3月17日

出張講義
- 観光科学～人文科学・経営学で展開してきた観光学に理系のスパイスを加えると何が変わるか？，横浜市立桜丘高等学校，2023年3月17日

講座・研修
- 八ヶ岳観光圏戦略セミナー・二次交通分科会セミナー（(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント），全10回
- 観光地域づくりマネージャーステップアップ研修（全国観光圏推進協議会），全3回
- JAPANCOOL ONLINE SCHOOL地域コーディネーター養成講座（令和二年度第三次補正中小企業等事業再構築促進補助金）「持続可能な観光と地域活性化」，2022年5月30日，オンライン
- ふくおか観光地域づくり共創塾観光戦略策定コース（福岡県）第2回「DMOに必要な観光データとは？」，2022年6月14日，福岡
- 東京都立大学オープンユニバーシティ「地域の価値を共創するための科学～持続可能な観光地域づくりのためのデータサイエンス」，2022年6月27日，オンライン
- 令和４年度専門課程インフラツーリズム研修（国土交通省国土交通大学校）「観光政策とインフラツーリズム」，2022年7月5日
- ドーコン地域政策セミナー（(株)ドーコン）「持続可能な観光政策と観光地経営の考え方」，2022年9月29日
- 観光経営トップセミナー（東京都立大学×(公社)日本観光振興協会），2022年10月17日，18日，11月7日，8日
- 地方創生カレッジ地方創生ビデオライブラリー「観光データと計画策定：ユニット1～4」，2022年10月31日収録
- 金沢大学先端観光科学研究センターアドバイザリーボードコメンテーター，2022年11月5日
- 第66回土木計画学研究発表会スペシャルセッション「ITSをプロジェクト化する研究と教育」オーガナイザー，2022年11月12日，琉球大学
- 東京都立大学オープンユニバーシティ「観光を理解するためのデータ～観光客や地域の観光動向を把握するデータ～その種類と活用方法，観光分析プラットフォームの活用方法」，2022年11月28日，東京
- 日観振地域観光DXセミナー（(公社)日本観光振興協会）基調講演「地域観光組織が知っておくべき観光分析プラットフォーム・データの今」，2022年11月30日，オンライン
- RESAS等ビックデータ活用セミナー（日本商工会議所）「地域内産業を活かす観光振興の取り組みをRESASから考える」，2022年12月6日，東京
- 令和4年度広域周遊観光促進に資する観光地域づくりマネージャー育成短期セミナー（観光庁），2023年1月30日，31日，2月6日，7日，東京
- 2022年度東京都高度観光経営人材育成講座（東京都立大学）「観光デジタルデータを読み解く～その解析・解釈の方法」，2023年2月21日，22日，28日，3月1日，東京
- 地方創生カレッジ in 大分県北部エリア，2023年3月2日，15日，豊後高田

メディア掲載
- 多摩都市モノレール町田方面延伸沿線まちづくり検討会関連記事，建設通信新聞2022年8月26日，タウンニュース多摩版・町田版2022年10月20日
- 週刊東洋経済2022年8月27日号シンクタンク厳選リポート「観光部門によるCO2排出の構造」
- インバウンド再起動ー識者が語る振興策～MaaS，利用者目線で，日経MJ，2023年1月4日
- 大学は産官学の地域連携をとりまとめられる「町医者」のような人材を生産できるか，大学等コアリッション地域ゼロカーボンワーキンググループインタビューシリーズ，2023年1月24日

06 社会貢献
Social contributions

川原　晋　Susumu KAWAHARA

学会活動等
- 日本建築学会 都市計画本委員会「持続可能な観光地形成小委員会」幹事
- 日本観光振興協会＋日本観光研究学会「観光分野における新技術対応とその地域展開研究会」委員

行政委員会委員等
- 観光庁「ロングストーリーによる地域のコンテンツの連携促進に向けた実証調査」有識者委員会 委員長
- 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」有識者委員会 委員
- 神奈川県 観光振興条例・計画検討分科会 委員
- 横浜市 地域まちづくり推進委員会 まち普請事業部会 委員（地域まちづくり課）
- 藤沢市 都市景観アドバイザー（計画建築部 景観課）
- 八王子市 景観審議会委員（まちなみ景観課）
- 八王子市 協議審査専門部会委員
- 八王子市 景観アドバイザー
- 町田市 観光まちづくり推進委員会 委員
  町田市 町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画 改定検討委員会
- 委員長
- 箱根町 史跡箱根旧街道保存整備基本計画策定委員会 委員

市民まちづくり
- 一般社団法人　エリアマネジメント南山　理事　（東京都稲城市内）
- 一般社団法人 大田クリエイティブタウンセンター理事（東京都大田区内）

岡村　祐　Yu OKAMURA

講師・講演
- （非常勤講師）駒澤大学「現代社会と都市論Ⅱ」
- （講演）「学生×企業が協働するまち~YOUNG☆POWER~」, 一般社団法人八王子青年会議所, 2022/4/14
- （講演）課題解決型プロジェクト研修「キックオフミーティング」, 株式会社東京臨海ホールディングス, 2022/6/21
- （講演）武蔵村山市第1回榎地区まちづくり懇談会, 2023/2/11
- （講演）公益財団法人東京観光財団サステナブル・ツーリズムにつながるスタディツアー＆イベント事例紹介セミナー, 2023/2/24

自治体の委員会等
- 経済産業省関東経済産業局「オープンファクトリーのイノベーション苗床機能強化にかかる勉強会」委員
- 経済産業省関東経済産業局「オープンファクトリーのあり方研究会」委員
- 東京都都市整備局 南大沢スマートシティ協議会委員、まちの賑わい部会部会長
  東京都都市整備局 令和4年度 南大沢スマートシティ支援業務委託技術審
- 査委員会委員
  東京都デジタルサービス局 令和5年度西新宿スマートシティ協議会運営業
- 務委託」に係る技術審査委員会特別委員
  東京都政策企画局 令和5年度デジタルコンテンツを活用した魅力発信事
- 業の技術審査委員会委員
  東京都政策企画局 令和4年度 デジタルコンテンツを活用した魅力発信に
- 係る企画立案業務等委託技術審査委員会委員
  山梨県韮崎市文化財保存活用施設基本構想策定委員会委員
- 山梨県韮崎市 史跡新府城跡保存整備委員会委員
- 東京都台東区浅草地区まちづくりビジョン策定委員会委員／同まちづくり部会部会長
- 東京都調布市都市計画マスタープラン策定検討委員会委員
- 東京都調布市 都市計画審議会委員
- 東京都武蔵村山市 まちづくり基本方針策定委員会委員
- 東京都武蔵村山市榎地区まちづくりアドバイザー
- 東京都八王子市都市公園指定管理者選定委員会委員
- 神奈川県茅ヶ崎市 景観アドバイザー

学会活動
- 日本建築学会（都市計画本委員会委員、地域観光プラニング小委員会委員主査）
- 日本観光研究学会（学術委員会委員）
- 日本都市計画学会
- 日本造園学会
- 日本イコモス国内委員会（広報委員会）

その他
- 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター 代表副理事
- （高大連携事業）都立南多摩高校探究活動支援（論文指導）
- （大学広報）東京都立大学総合研究推進機構 NEWS Miyacology13号に研究内容が紹介「観光が地域の産業やコミュニティを元気にする　持続可能な観光まちづくり」
- （イベント主催）「ファクトリップ |Factory×Trip｜」, 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター, 2022/118
- （イベント主催）「おおたオープンファクトリー2022」, おおたオープンファクトリー実行員会主催, 2022/11/26

大平　悠季 Yuki OHIRA

- 八王子市開発審査会　委員

06 社会貢献
Social contributions

益子　智之 Tomoyuki MASHIKO

講師・講演
- (講師)東京大学「復興デザイン学」2022/6/1
- (講師)立命館大学「都市計画」2022/10/24
- (講師)立命館大学「都市デザイン」(英語)2022/10/25
- (講演)A-Forum主催 第44回AFフォーラム「震災復興まちづくり」2022/10/18
- (講演)アーバニズム・レビュー主催「社会実験がドライブする都心再生(カミハチキテル・広島市)レビュー」2022/11/17

学会活動
- 日本建築学会 [若手奨励]特別研究委員会 幹事
- 復興デザイン会議 全国大会実行委員会 委員
- U30復興デザインコンペ審査委員会 事務局

社会活動
- 早稲田大学 総合研究機構 都市・地域研究所 戸塚協働復興活動研究会事務局

平田　徳恵 Norie HIRATA

- 日本建築学会 住まい・まちづくり支援建築会議 運営委員会委員・情報事業部会(幹事)
- 八王子市まちづくりアドバイザー
- 千葉県建築士会 夷隅支部ISUMIエコミュージアム推進部会アドバイザー
- 武蔵野大学 基礎セルフデベロップメント人間・環境分野 非常勤講師

06 社会貢献
Social contributions

6-3. 行動経営科学領域

相原　健郎 Kenro AIHARA

- ACM UMAP Program Committee
- 米沢市 アドバイザー
- 南大沢スマートシティ協議会 アドバイザー

日原　勝也 Katsuya HIHARA

- 東京大学公共政策大学院（国際観光交通政策研究ユニット（ITTPU）の客員研究員として、交通・社会インフラを中心とする公共政策分野の大学院レベルの教育研究を支援・連携中
- 一般社団法人　航空イノベーション推進協議会　AIDA（代表理事：鈴木真二東大名誉教授）において、会員として、地域航空検討委員会、人材育成検討委員会の委員をと止め、我が国の航空輸送システムに関するイノベーション研究教員を支援中
- 東京都財務局　大学研究者による事業提案制度に係る審査委員
- 多摩信用金庫を核として、シェアリングエコノミーについて勉強会を立ち上げ、関東経産局、八王子市、日野市、国分寺市、UR、富士通他の関係者と、観光による地域振興の研究を展開中。

倉田　洋平 Yohei KURATA

- 観光情報学会理事

Wu Lingling Wu Lingling

- 土木計画学研究委員会・学術小委員会幹事

小笠原　悠 Yu OGASAWARA

- 日本オペレーションズ・リサーチ学会 学生発表審査委員

07 受賞等
Awards, etc.

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

7-1. 自然環境マネジメント領域

氏名	論文タイトル
仁平　尊明	Best Paper Award, The Hokkaido Geographical Society, June 2022.

7-2. 地域計画・マネジメント領域

氏名	論文タイトル
清水　哲夫	「地域企業・団体と連携した課題解決型学習PBLの実施」2021年度東京都立大学ベスト・ティーチング・アワード，2022年9月． 「注意機構を用いたGraph Convolutional Networksによる短期的将来滞在人口数推定」(一財)情報処理学会論文誌ジャーナル/JIP特選論文，2023年1月．
川原　晋	東京都立大学2021年度ベスト・ティーチング・アワード,「地域企業・団体と連携した課題解決型学習ＰＢＬの実施」(岡村 祐, 川原 晋, 大平悠季, 清水哲夫(2022))
岡村　祐	東京都立大学 2021 年度ベスト・ティーチング・アワード,「地域企業・団体と連携した課題解決型学習ＰＢＬの実施」(代表)
大平　悠季	2021 年度東京都立大学ベスト・ティーチング・アワード（地域企業・団体と連携した課題解決型学習 PBL の実施），東京都立大学（岡村祐准教授，川原晋教授，清水哲夫教授との取組） 情報処理学会論文誌ジャーナル/JIP特選論文（受賞論文:久保田祐輝，大平悠季，清水哲夫，注意機構を用いたGraph Convolutional Networksによる短期的将来滞在人口数推定，情報処理学会論文誌 Vol.64, No.1, pp.189–199, 2023.），(一財)情報処理学会
益子　智之	日本都市計画学会　論文奨励賞（博士学位論文「イタリアにおける歴史的市街地の震災復興にみる共編集型都市計画論の構築」に対する賞）　2022年6月 前田記念工学振興財団　山田一宇賞（博士学位論文「イタリアにおける歴史的市街地の震災復興にみる共編集型都市計画論の構築」に対する賞）　2022年6月 日本建築学会　奨励賞（査読付論文「復興ガバナンスの構築プロセスと復興事業の実施プロセスの相互関係」に対する賞）　2022年9月

観光を科学する TOURISM SCIENCE

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

観光を科学する
TOURISM SCIENCE

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

2022 アニュアルレポート

編集・発行：東京都立大学 都市環境学部 観光科学科
発行日：2023 年 4 月 1 日

内容に関してのお問い合わせ
東京都立大学 都市環境学部 観光科学科
電話　　：042-677-2664
E メール：kyomu@tmu.ac.jp
http://www.comp.tmu.ac.jp/tourism/